



人形浄瑠璃

にんぎょうじょうるり



「はなやか関西～文化首都年」とは

「はなやか関西～文化首都年～」は、国土形成計画法第9条の規定に基づく近畿圏広域地方計画の主要プロジェクト「文化首都圏プロジェクト」を推進する取組です。

関西は日本の文化の源泉であり、今も「本物」の文化を継承・発展させている地域です。

「はなやか関西～文化首都年～」では、こうした関西が誇る「本物」を活かした取組を「テーマ」で東ね、国内外へ発信していきます。「関西ブランド」の創造により関西の価値や魅力を高め、関西一丸で、日本を先導する「文化首都圏・関西」の形成を目指します。

平成24年度のテーマは「人形浄瑠璃」です

- 人形浄瑠璃は関西において発祥・発展し、関西において完成した伝統芸能です。関西には「人形浄瑠璃」の興行を行う団体のほか「人形浄瑠璃」にまつわる技術や史跡等が多数集積しており、関西は日本を代表する「人形浄瑠璃」の中心といえます。
- 「人形浄瑠璃」が関西各地に広がる中で、「木偶人形」「三味線」など、「人形浄瑠璃」にまつわる多様なものの技術や技法も、関西を中心にして磨かれてきました。これらの関西生まれの日本を代表する「人形浄瑠璃」は、海外の人形劇・演劇界にも多大な影響を与えており、海外においても高い評価を得ています。
- 「人形浄瑠璃文楽」は、「能」や「歌舞伎」とともにユネスコ世界無形文化遺産に登録されており、「人形浄瑠璃」は日本が世界に誇る伝統・古典芸能といえます。

関西のブランド力向上推進のための準備会構成機関

- 府 県 福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、徳島県、鳥取県
- 指 定 都 市 京都市、大阪市、堺市、神戸市
- 経 済 団 体 等 (公社)関西経済連合会、大阪商工会議所、関西広域機構、(社)関西経済同友会、京都商工会議所、堺商工会議所、神戸商工会議所
- 国の地方支分部局 農林水産省近畿農政局、経済産業省近畿経済産業局、国土交通省近畿運輸局、環境省近畿地方環境事務所、国土交通省近畿地方整備局

はなやか関西 ～文化首都年～ 2012「人形浄瑠璃」実行委員会

お問い合わせ先：近畿圏広域地方計画推進室 電話 06-6942-1056 FAX 06-6942-3912

●詳しくはホームページ ● http://www.kkr.mlit.go.jp/kokudokeikaku/program/category_plan.html

はなやか関西2012

検索



N I N G Y O H - J O H R U R I

公式ガイドBOOK

ごあいさつ

はなやか関西 ～文化首都年～ 2012「人形浄瑠璃」



かわうち あつろう
実行委員会 委員長 河内 厚郎
(演劇評論家・神戸夙川学院大学 教授)



東日本大震災を機に日本国籍を取得した、ドナルド・キーンさんの記念館が新潟県柏崎市にできる。五年前の中越沖地震の後、同市が舞台となった浄瑠璃の三百年ぶり復活公演をキーンさんが提案、実現したのが契機だ。

かつて人形浄瑠璃は今日のNHK大河ドラマのような存在であり、浄瑠璃言葉は近世日本の共通言語となって関西から全国津々浦々に伝播していった。その名作群は人間の役者が演じる歌舞伎へも続々と移植され、「忠臣蔵」など国民劇に育っていく。

私の住む兵庫県西宮市は、中世から近世初頭にかけて、傀儡師と呼ばれる人形遣いたちが住んだ街で、今も人形芝居の祖神「百太夫」を祀っている。この西宮神社に仕えた人形操りの芸に、十六世紀に大阪湾岸へ渡来した三味線音楽、その伴奏で語る浄瑠璃の語り—三つが結びついて人形浄瑠璃となった。

関西の、日本の誇る歴史遺産、人形浄瑠璃に新しい命を吹き込んでみたいと思う。



実行委員会 アドバイザー
くぼり ひろあき
久堀 裕朗
(大阪市立大学大学院 文学研究科 准教授)

浄瑠璃という語り物と、人形操りが一体となって成立した人形浄瑠璃は、関西で生まれ育って各地へ伝播した、日本を代表する伝統芸能です。時空を超える語りの表現と、生死をも自在に描く人形の表現は、両者相まって、この芸能に、他の何物にも代え難い魅力を付与しています。テレビドラマにも、映画にも、ミュージカルにもないその独特の魅力を、人形浄瑠璃の本拠地である関西から、全国へ向けて再発信していきたいと思えます。



実行委員会 アドバイザー
くにえだ
国枝よしみ
(大阪成蹊短期大学 観光学科 教授)

今も人々を魅了する人形浄瑠璃。2008年、ユネスコ無形文化遺産に登録された人形浄瑠璃文楽は、世界に誇る高度な舞台芸術です。関西及び隣接県では、地域芸能としても人々の生活とともに歴史を刻み、今日まで独特の伝統文化として受け継がれてきました。このことは関西の歴史・文化の奥深さを物語っています。今年度は、この貴重な地域資源に着目し、国内外にその芸術性や精神性を発信していきましょう。さまざまな活動を通じて一人でも多くの方が人形浄瑠璃に興味や関心を持っていただくことを期待しています。

目次

コア事業

- 第27回国民文化祭・
とくしま2012 全国人形芝居フェスティバル…… 3
- 第15回 阿波人形浄瑠璃芝居フェスティバル…… 5

人形浄瑠璃文楽

- 国立文楽劇場(独立行政法人 日本芸術文化振興会)…… 7
- 公益財団法人 文楽協会 …… 9

スケジュール・MAP

- 取組参加団体イベントスケジュール …… 11
- 取組参加団体MAP …… 13

滋 賀

- 富田人形夏の公演 …… 14

京 都

- 伝統芸能定期公演と文化サークル発表 …… 15
- 京丹波町立和知小学校人形浄瑠璃クラブ …… 16

大 阪

- 華やかなる乙女文楽・吉田光華の世界 …… 17
- 浄瑠璃の里 能勢 …… 19
- 初心者のための上方伝統芸能ナイト …… 21
- 上方文化講座2012「絵本太功記」 …… 22
- 高津子ども文楽発表会 …… 23
- 定期公演「いずみ子ども文楽2013」 …… 24
- 能勢人形浄瑠璃と万博公園早期観連会との共演 …… 25

兵 庫

- 人形芝居のふるさとづくり
「えびすかき」から「人形浄瑠璃」へ …… 26
- 酒屋万来文楽 …… 27
- 近松ナウ …… 28
- 近松記念館資料展示室の公開 …… 29
- 「近松講座」・閲覧室公開 …… 30
- 神戸女子大学古典芸能研究センターの事業 …… 31
- 淡路人形浄瑠璃魅力発信事業(仮称) …… 32
- 淡路人形浄瑠璃後継者交流発表会(仮称) …… 33
- 淡路人形座 定期公演 …… 34
- 淡路人形浄瑠璃関係資料の展示 …… 35
- 兵庫県立淡路三原高等学校郷土部
創立60周年記念式典並びに記念公演 …… 36
- 伝統芸能を中学校クラブ活動で伝承 …… 37
- 市小学校 学習発表会 …… 38
- 子どもたちの人形浄瑠璃交流会 …… 39
- 文楽 in Hyogo …… 40

奈 良

- 乙田人形浄瑠璃・芝居資料 …… 41

和歌山

- 春の本堂無料公開・
特別展示「道成寺物の世界 人形浄瑠璃」 …… 42

福 井

- 第15回たちまち近松まつり …… 43

三 重

- 平成24年 安乗神社秋季例大祭奉納
安乘人形芝居 …… 44

鳥 取

- 円通寺人形芝居 …… 45

徳 島

- 阿波十郎兵衛屋敷
(阿波人形浄瑠璃の上演・資料展示) …… 46
- 農村舞台連携事業(PR事業) …… 47
- 阿波人形浄瑠璃公演 …… 48
- 阿波木偶資料館リニューアルオープン …… 49
- 第67回夏期阿波人形浄瑠璃大会 …… 50
- 分野別フェスティバル 阿波人形浄瑠璃まつり …… 51
- 一人違い伝統人形大芝居partIII …… 52
- 今山農村舞台秋公演 …… 53
- 人形浄瑠璃街道ー日本の基層に息づく感性 …… 54
- 阿波人形芝居フェスティバルin勝浦 …… 55
- 第25回 阿波勝浦ビッグひな祭り …… 56
- 勝浦高校民芸部50周年記念大会 …… 57
- 人形浄瑠璃、復活、普及、推進月間 …… 58

第27回 国民文化祭・とくしま2012 全国人形芝居フェスティバル

■平成24年10月20日(土)、21日(日)
 ■あわぎんホール(徳島県郷土文化会館) 〒770-0835 徳島県徳島市藍場町2丁目14番地
 ●問い合わせ先…
 財団法人 徳島県文化振興財団 第27回国民文化祭担当チーム (担当者:久米、佐々木)
 〒770-0835 徳島県徳島市藍場町2丁目14番地 TEL:088-602-0133 FAX:088-602-0134
 URL:http://www.kyoubun.or.jp(あわぎんホール)
 http://www.pref.tokushima.jp/awastyles/(第27回国民文化祭・とくしま2012)
 E-mail:kokuminbunkasai@kyoubun.or.jp

DISCOVER AWA-STYLES
あわ発見伝
 ※第27回国民文化祭・とくしま2012
 2012年9月1日[土]——▷12月14日[金]

■主催
 第27回国民文化祭徳島県実行委員会
 (財)徳島県文化振興財団
 徳島県
 (財)自治総合センター
 関西広域連合
 ■共催(予定)
 文化立県とくしま推進会議
 人形浄瑠璃街道連絡協議会
 ほか

第27回国民文化祭・とくしま2012

平成24年9月1日から12月14日まで、徳島県下において、全国初の二度目となる「第27回国民文化祭・とくしま2012」を開催します。

平成19年の「第22回国民文化祭・とくしま2007」開催を契機として取り組んできた、徳島が誇る「阿波人形浄瑠璃」、「阿波藍」、「阿波踊り」、「ベートーヴェン第九」の4大モチーフ魅力発信事業をはじめ、これまでの取り組みの集大成を全国発信することにより、「地域の魅力と活力」の創造につながる国民文化祭を実施します。

人形浄瑠璃街道

人形浄瑠璃は、西宮の人形操りから発展したものであり、淡路～徳島へ、また関西各地へと伝播・発展して、人形浄瑠璃として関西から全国に広がったといわれています。

こうした歴史的経路を「人形浄瑠璃街道」と位置づけ、関係機関のネットワークを形成して相互の情報交換を行い、交流・連携を深めることにより、各地の人形浄瑠璃の個性的な魅力を伸ばすとともに、府県域を超えた魅力溢れる文化資源の掘り起こしや観光資源としてのPR活動等を展開し、関西から人形浄瑠璃の魅力を国内外に発信していきます。



「人形浄瑠璃街道」PR



阿波人形浄瑠璃の上演

全国人形芝居フェスティバル

①全国の人形芝居の上演

全国各地の個性的な人形芝居団体による多彩な演目の上演のほか、ワークショップ(体験)やパネル展示等もあり、人形浄瑠璃の魅力をわかりやすく伝え、楽しく観覧できるイベントです。

②「人形浄瑠璃街道」魅力発信シンポジウム

徳島県、(財)自治総合センター、関西広域連合が主催となり、「人形浄瑠璃街道」魅力発信シンポジウムを開催します。

河内厚郎氏による基調講演のほか、人形浄瑠璃関係者によるパネルディスカッションを行います。また、プロの人形座による上演のほか、阿波人形浄瑠璃の特性・魅力を盛り込んだダイジェスト作品の上演等があります。

■フェスティバル 10月20日(土)、21日(日)10時開演(予定)

■シンポジウム 21日(日)13時～(予定)

●場 所/あわぎんホール 1階 ホール

●入場料/無料 ※開場時、人形から福のお裾分けがあります。

阿波木偶の魅力

全国の人形浄瑠璃を支えてきた阿波の木偶。道具であった人形を芸術品の域にまで高めた天狗久や、大阪の文楽座所有の「かしら」の大半を制作した大江巳之助ら名人を輩出してきました。現代においても先人の技術を継承する人形師が多数活躍し、木偶づくりの伝統と技が受け継がれています。

全国人形芝居フェスティバルの開催に合わせ、あわぎんホール5階において、木偶特別展を開催します。木偶展示のほか、普段なかなか見ることができない制作工程の実演などがご覧いただけます。ぜひ、阿波木偶の魅力、迫力を間近で感じてください。

人形浄瑠璃の魅力がたっぷり詰まった2日間。どうぞお見逃しなく!!

みなさまのご来場をお待ちしております。



阿波の木偶

(写真出典:(財)徳島県文化振興財団)

第15回 阿波人形浄瑠璃芝居フェスティバル

- 平成24年9月29日(土)、30日(日)
- あわぎんホール(徳島県郷土文化会館) 〒770-0835 徳島県徳島市藍場町2丁目14番地
- 問い合わせ先…
- 財団法人 徳島県文化振興財団 事業課 (担当者:秋枝)
- 〒770-0835 徳島県徳島市藍場町2丁目14番地 TEL:088-622-8121 FAX:088-622-8123
- URL:http://www.kyoubun.or.jp(あわぎんホール)
- E-mail:jigyo@kyoubun.or.jp
- 主催:財団法人 徳島県文化振興財団
- 共催(予定):文化立県とくしま推進会議、人形浄瑠璃街道推進協議会
- 協力(予定):公益財団法人 阿波人形浄瑠璃振興会



ホワイエでぬりえや人形遣い体験



人形浄瑠璃街道パネル展示で各地の芝居を紹介

出演団体(予定)

大夫部屋【喜笑会、友和嘉会、友輔会、友成会、城北会】

人形座【勝浦座、寄井座、中村園太夫座、城北座、鳴門座、あわ工藝座、名月座、ふれあい座、平成座、阿波十郎兵衛座、大谷旭源之丞座、青年座、駒三座 ほか】

上演外題(予定)

「えびず舞」「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段・十郎兵衛住家の段」

「壱坂観音霊験記 沢市内の段・山の段」「生写朝顔話 宿屋から大井川まで」

「恋女房染分手綱 重の井子別れの段」「仮名手本忠臣蔵 祇園一力茶屋の段」など



徳島ゆかりの名作「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」



瀬戸内寂聴原作 新作「モラエス恋遍路」
ホールならではの演出も

(写真出典:(財)徳島県文化振興財団)

徳島県内の人形浄瑠璃が集結

約400年の歴史と伝統を持ち、平成11年度には国の重要無形民俗文化財に、また、平成13年度には天狗久工房跡等が国の重要有形民俗文化財に指定されるなど、阿波人形浄瑠璃は名実共に本県が全国に誇る民俗伝統芸能です。

今年15回目を迎える阿波人形浄瑠璃フェスティバルは、子どもから高齢者まで、徳島の伝統芸能を継承する方々が集い、人形浄瑠璃芝居の鑑賞の場を提供するとともに、互いに交流を図り、研鑽し、徳島が誇る阿波人形浄瑠璃の継承とさらなる発展を目的に実施しています。毎年総出演者が300名を超えるなど年々盛んになり、全国一の規模を誇るフェスティバルとなってきました。

阿波人形浄瑠璃では定番の「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」や夫婦愛を描いた「壱坂観音霊験記」などの古典から、「モラエス恋遍路」など平成19年の国民文化祭を機に創られた新作まで、県内人形座、大夫部屋、クラブなど約30団体による上演のほか、ゲストによる特別上演などを実施しています。

農村舞台や小屋掛け公演では見られない、ホールならではの大道具や演出で、迫力ある舞台を楽しんでいただけます。浄瑠璃漬けの2日間を是非お楽しみください。



徳島県のマスコット「すだちくん木偶」もロビーでお出迎え



会場周辺 各出演団体の幟

人形浄瑠璃文楽

文楽とは

日本の伝統的な人形劇であり、世界に誇りうる舞台芸術の名称です。

文楽は元来、この人形劇を上演する劇場の名称でしたが、いつしか芸能そのものをさすようになり、現在では正式名称になっています。

能楽、歌舞伎と共に日本の三大国劇の一つに数えられる文楽は、明治末期頃までは「操り浄瑠璃芝居」あるいは「人形浄瑠璃」と呼ばれていました。浄瑠璃にあわせて演じ操る人形芝居の意です。

文楽が世界に冠たる人形劇であり芸術であるのも、高度な演劇性等を持った義太夫節と、三人遣いの人形による洗練された三人遣いの様式に帰します。

世界には無数の人形劇が継承され存在し民族の心の支柱ともなっていますが、その殆どは荒唐無稽で単純な内容で占められています。

文楽のように一日がかりで深刻な人間ドラマが展開されるものはありません。さらに、人形劇の殆どは人形を操る者の姿を隠す工夫をしていますが、文楽では人形遣いが観客の前に登場し、時には肩衣を着けた正装で登場します。世界の人形劇にはない、この二つの特徴こそ文楽が高度に発達した舞台芸術とされる所以です。

以上の理由などにより、文楽は我が国の“重要無形文化財”に指定、平成20年(2008)11月4日には、ユネスコの無形文化遺産条約にもとづき、「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されています。



曾根崎心中・天満屋の段



妹背山婦女庭訓・妹山背山の段



国立文楽劇場

(独立行政法人 日本芸術文化振興会)

〒542-0073 大阪市中央区日本橋1丁目12番10号

■TEL:06-6212-2531(代)

■FAX:06-6212-1091

■URL:<http://www.ntj.jac.go.jp/bunraku.html>

『国立文楽劇場』の活動

国立文楽劇場は、独立行政法人日本芸術文化振興会の施設のひとつで、我が国の優れた伝統芸能であり世界に誇る舞台芸術である「人形浄瑠璃文楽」を中心に、広く上方芸能を保存・継承し発展させるための拠点として、昭和59年に開場しました。

「人形浄瑠璃文楽」の公演のほか、舞踊・邦楽・大衆芸能・特別企画等の公演を行い、伝統芸能の保存と振興に努める一方、伝承者の養成及び調査研究・資料収集等の事業に取り組んでいます。

文楽公演 平成24年度年間予定

月	公演期間	公演内容	開演時間	料金(税込)
H24 4	7(土)~30(月・休) ※19日は休演	4月文楽 第1部『加賀見山旧錦絵』 第2部『祇園祭礼信仰記』『桂川連理柵』 ※20(金)より第1部と第2部の演目入替	11:00 4:00	1等 5,800円 2等 2,300円
6	8(金)~21(木) [11(月)・20(水)は午後の部のみ] ※「社会人のための文楽入門」 11(月)・20(水) 6:30~	文楽鑑賞教室 『伊達娘恋緋鹿子』 解説 文楽へようこそ 『菅原伝授手習鑑』	10:30 2:00 ※6:30	学生 1,300円 一般 3,600円
	23(土)・24(日)	文楽若手会 「二人三番叟」「義経千本桜」すしやの段・道行初音旅	1:00	一般 2,000円
7 ・ 8	7/21(土)~8/7(火)	夏休み文楽特別公演 第1部『鈴の音』・ぶんらくってなにあに『西遊記』 第2部『摂州合邦辻』『伊勢音頭恋寝衣』 『契情倭莊子』 第3部『曾根崎心中』	1部 11:00 2部 2:00 3部 6:30	一般 4,600円 学生 2,300円 子ども(高校生以下) 1,800円
11	3(土)~25(日) ※14日は休演	11月文楽 演目選定中	11:00 4:00	1等 5,800円 2等 2,300円
H25 1	3(木)~25(金) ※15日は休演	初春文楽 演目選定中	11:00 4:00	1等 5,800円 2等 2,300円

※ 7/1(日)は創立記念日のため休館です。

※ 日程・開演時間・内容・料金に変更が生じる場合もございます。ご観劇・ご注文の際は、予め確認をお願いします。

人形浄瑠璃文楽

公益財団法人文楽協会について

文楽協会は、大坂が生んだ古典芸能「人形浄瑠璃文楽」の復興と技芸員の育成を図るため、国・大阪府・大阪市並びに日本放送協会・関西経済会等が立ち上がり、昭和38年（1963年）に設立されました。

その後、昭和59年（1984年）には国立文楽劇場が大坂に開設され、一方「人形浄瑠璃文楽」は平成15年（2003年）11月、ユネスコの「人類の口承及び無形遺産の傑作宣言」（世界無形遺産宣言）を受けるに至っています。

公益財団法人文楽協会の活動

世界無形遺産、重要無形文化財「人形浄瑠璃文楽」は、大阪が世界に誇る伝統芸能です。文楽協会はこの文楽を保存継承していくために、国、大阪府、大阪市及び関西財界が設立した法人であり、文楽を構成する三業（大夫・三味線・人形）技芸員を掌握し伝承・保存、普及活動を行う唯一の団体であり、この貴重な無形文化財「人形浄瑠璃文楽」の伝承・保存活動を行っています。

国指定重要無形文化財（昭和30年5月12日指定）

【座員現在数82名】

太夫24名、三味線19名、人形遣い39名

このうち重要無形文化財保持者は、人間国宝6名を含め、

太夫16名、三味線13名、人形遣い25名の計54名となっています。



ヨーロッパ公演の様子（平成17年）



第8回文楽デー（平成23年）

平成24年度事業（H24.4.1～H25.3.31）

事業名	期 間	会 場
かしはら万葉ホール公演	H24.7.7（日）	奈良県橿原市
内子座公演	H24.8.25（金）～26（日）	愛媛県内子町内子座
10月地方公演	H24.9.29（土）～10.21（日）	別表
吉野町公演	H24.10.27（土）～28（日）	奈良県吉野町ふるさとセンター
近松祭（近松記念館）	H24.10.28（日）	兵庫県尼崎市広済寺
いろはレクチャー	H24.10.25（木）～27（土）	福岡イムズホール
日経文楽の夕べ	H24.11.29（木）	未定（23年度は大阪市中央公会堂）
博多座公演	H24.12.22（土）～23（日）	福岡県博多市
レクチャー公演	H25.1.30（水）	福岡キャナルシティ
3月地方公演	H25.3.3（日）～3.17（日）	別表
ギオンコーナー	H24.3.9（金）～24.11.30（金） （7/16・8/16を除く）	京都弥栄会館*ワコナー

平成24年度地方公演日程表

期 間	会 場
H24.9.29（土）	河内長野市立文化会館
H24.10.4（木）～5（金）	名古屋市芸術創造センター
H24.10.6（土）	岡崎市せきれいホール
H24.10.7（日）	神奈川県立青少年センター
H24.10.9（火）	枚方市市民会館
H24.10.13（土）	府中の森芸術劇場
H24.10.14（日）	静岡グランシップ
H24.10.17（水）	仙台電力ホール
H24.10.19（金）	千葉市文化センター
H24.10.20（土）	相模原市 杜のホールはしもと
H24.10.21（日）	立川市市民会館
H25.3.3（日）	姫路キャスパホール
H25.3.4（月）	京都府立文化芸術会館
H25.3.7（木）	戸畑市民会館
H25.3.8（金）	広島アステールプラザ
H25.3.9（土）	倉敷市芸文館
H25.3.10（日）	丸亀市民会館
H25.3.16（土）	宇都宮市文化会館
H25.3.17（日）	大田区民プラザ

（写真出典：公益財団法人 文楽協会）



福井県でのワークショップ

公益財団法人 文楽協会

〒542-0073 大阪市中央区日本橋1丁目12番10号

■TEL:06-6211-1350

■FAX:06-6211-3609

■URL:<http://www.bunraku.or.jp/>

はなやか関西 ～文化首都年～ 2012『人形浄瑠璃』 取組参加団体イベントスケジュール

■ 演者 ■ 人形・道具 ■ 空間
■ 風習 ■ 歴史 ■ その他

場所	頁	No	取組	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
滋賀	14	S1	富田人形夏の公演				平成24年7月29日					平成24年12月2日			
	15	K1	伝統芸能定期公演と文化サークル発表	通年(毎月1回土曜日開催/但し12月除く)											
	16	K2	京丹波町立和知小学校人形浄瑠璃クラブ						京丹波町町民文化祭発表(11月予定)				6年生を送る会で発表(3月予定)		
大阪	17	O1	華やかなる乙女文楽・吉田光華の世界 (1)地歌で舞う乙女文楽 (2)長唄で舞う乙女文楽 (3)義太夫で舞う乙女文楽				平成24年7月28日								
	19	O2	浄瑠璃の里 能勢	通年											
	21	O3	初心者の上の方伝統芸能ナイト	毎月第1・3土曜日のうち 随時											
	22	O4	上方文化講座2012「絵本太功記」				平成24年8月29、30、31日								
	23	O5	高津子ども文楽発表会							平成24年11月23日					
	24	O6	定期公演「いずみ子ども文楽2013」												平成25年3月下旬
	25	O7	能勢人形浄瑠璃と万博公園早朝観蓮会との共演			平成24年7月中旬									
兵庫	26	H1	人形芝居のふるさとづくり「えびすかき」から「人形浄瑠璃」へ	平成24年6月9日											
	27	H2	酒屋万来文楽							平成24年10月27日					
	28	H3	近松ナウ					平成24年9月～平成25年3月							
	29	H4	近松記念館資料展示室の公開	通年(毎週水曜日、毎月第2日曜日、8月13日～16日、12月29日～1月7日を除く)											
	30	H5	近松講座・閲覧室公開	①前期/4～7月金曜日 午後 閲覧室は通年(大学の長期休暇中除く) ②後期/10～12月金曜日午後 (いずれも10回)											
	31	H6	神戸女子大学古典芸能研究センターの事業	通年(※閲覧日時は別に定める)											
	32	H7	淡路人形浄瑠璃魅力発信事業(仮称)	平成24年6、7月					平成24年10月					平成25年2月(予定)	
	33	H8	淡路人形浄瑠璃後継者交流発表会(仮称)		平成24年7月21日、22日										
	34	H9	淡路人形座 定期公演	平成24年4月1日～6月17日					平成24年8月8日～平成25年3月						
	35	H10	淡路人形浄瑠璃関係資料の展示	通年											
	36	H11	兵庫県立淡路三原高等学校郷土部 創立60周年記念式典並びに記念公演	平成24年6月下旬											
	37	H12	伝統芸能を中学校クラブ活動で伝承	通年											
	38	H13	市小学校 学習発表会							平成24年11月下旬 土曜日					
	39	H14	子どもたちの人形浄瑠璃交流会			平成24年7月26日									
	40	H15	文楽 in Hyogo								平成24年11月27日				
奈良	41	N1	乙田人形浄瑠璃・芝居資料	未公開											
和歌山	42	W1	春の本堂無料公開・特別展示「道成寺物の世界 人形浄瑠璃」										平成25年3月20日～4月8日		
福井	43	F1	第15回たちまち近松まつり							平成24年10月14日					
三重	44	M1	平成24年安乗神社秋季例大祭奉納 安乗人形芝居					平成24年9月15、16日							
鳥取	45	T01	円通寺人形芝居	随時											
徳島	46	T1	阿波十郎兵衛屋敷(阿波人形浄瑠璃の上演・資料展示)	通年(※休館日:12月31日～1月3日)											
	47	T2	農村舞台連携事業(PR事業)	通年											
	48	T3	阿波人形浄瑠璃公演						平成24年10月14日			11月3日			
	49	T4	阿波木偶資料館リニューアルオープン					平成24年9月～							
	50	T5	第67回夏期阿波人形浄瑠璃大会		平成24年7月21日、22日										
	51	T6	分野別フェスティバル 阿波人形浄瑠璃まつり							平成24年11月17日、18日					
	52	T7	一人違い伝統人形大芝居partⅢ							平成24年10月13日					
	53	T8	今山農村舞台秋公演						平成24年10月7日						
	54	T9	人形浄瑠璃街道ー日本の基層に息づく感性	平成24年3月10日発行											
	55	T10	阿波人形芝居フェスティバルin勝浦						平成24年9月22日						
	56	T11	第25回阿波勝浦ビッグひな祭り											平成25年2月下旬～3月下旬	
	57	T12	勝浦高校民芸部50周年記念大会						平成24年8月26日						
	58	T13	人形浄瑠璃、復活、普及、推進月間	通年											

「人形浄瑠璃」をテーマにした取組参加団体MAP



S1

富田人形夏の公演

◎時期：平成24年7月29日(日)・12月2日(日) 午後1時30分開演

◎場所：余呉はごろもホール

〒529-0515 滋賀県長浜市余呉町中之郷958

■お問い合わせ先…富田人形共遊団 (担当：阿部 秀彦)

●〒526-0131 滋賀県長浜市富田町935 ●TEL.0749-72-2082 ●FAX.0749-72-2082

●E-mail: tonda_abe@yahoo.co.jp

■主催：富田人形共遊団

共同する団体名：滋賀県／滋賀県教育委員会／長浜市／長浜市教育委員会／(財)長浜文化スポーツ振興事業団

伝承以来180年余の伝統をもつ富田人形の、夏と秋の年2回行う定期公演です。

地域の人たちは父子相伝で継承してきた人形を、わが子同然にいつくしみ、こよなく愛好してきました。

今回は、毎年6月から2ヶ月間もの間、ホームステイをしながら伝統ある人形浄瑠璃を学習留学生の成果も発表します。学生たちは日本の伝統文化を学べることに大きな喜びを抱き、

熱心に人形・浄瑠璃・三味線の習得に努力をしてきました。これまで9年間で84名の学生が富田人形のプログラムに参加してきました。どうぞその成果をご覧ください。

日高川入相花王、鬼一方眼三略巻、伊達娘恋緋鹿子の演目は得意とする演目で、登場人物や出来事もご存知のものばかりで、気楽にお楽しみください。



伊達娘恋緋鹿の子



日高川入相花王



東海道中膝栗毛



日高川入相花王

(写真出典:富田人形共遊団)

伝統芸能定期公演と文化サークル発表

◎時期：平成24年4月～平成25年3月 毎月1回 土曜日開催〔但し12月を除く〕

◎場所：道の駅『和』道路情報センター内 伝統芸能常設館

〒629-1131 京都府船井郡京丹波町坂原上モジリ11番地

■お問い合わせ先…(財)和知ふるさと振興センター (担当：高谷 / 駅長)

●〒629-1131 京都府船井郡京丹波町坂原上モジリ11番地 ●TEL.0771-84-1008 ●FAX.0771-84-1579

●E-mail:rsnagomi@crux.ne.jp

■主催：(財)和知ふるさと振興センター 共同する団体名:和知人形浄瑠璃会 / 和知民芸保存会 / 京丹波町文化協会

開けよう!文化の扉…伝統芸能と文化サークルの共演

すぐそばを由良川が流れ、のどかな町並みを一望できる道の駅『和』。施設内に設置された道路情報センター内の伝統芸能常設館では、月に1度、伝統芸能定期公演と文化サークルの発表が行われています。

平成23年京都国文祭では、京丹波町のメイン事業として、伝統の技とところを全国に発信した『和知人形浄瑠璃』(京都府指定文化財)をはじめ、京丹波町が誇る伝統芸能と吹奏楽、舞踊など数々の文化の共演を気軽にお楽しみいただけます。

開けてみませんか!文化の扉…、おもてなしの心とともに京丹波町の文化と魅力を発信します。

客席数135席。協力費300円。

※特産館では、丹波栗や黒豆、採れたて地元産野菜、地酒なども販売しています。



道の駅「和」
(写真出典:ウィキメディア・コモンズ)



和知人形浄瑠璃
(写真出典:京丹波町教育委員会)



和知太鼓
(写真出典:京丹波町)



小畑万歳
(写真出典:京丹波町教育委員会)

開催日	出演者
平成24年 4月28日(土)	和知人形浄瑠璃会、大正琴同好会、柳姿会、京丹波吹奏楽団
平成24年 5月26日(土)	和知人形浄瑠璃会、和知太鼓保存会、しゃくなげ会、京丹波吹奏楽団
平成24年 6月23日(土)	和知人形浄瑠璃会、小畑万歳保存会、あじさいの会、京丹波吹奏楽団
平成24年 7月28日(土)	和知人形浄瑠璃会、文七踊り保存会、すみれ会、京丹波吹奏楽団
平成24年 8月18日(土)	和知人形浄瑠璃会、大正琴同好会、柳姿会、京丹波吹奏楽団
平成24年 9月22日(土)	和知人形浄瑠璃会、神心流吟と舞教室、あじさいの会、かつみ会、京丹波吹奏楽団
平成24年 10月27日(土)	和知人形浄瑠璃会、しゃくなげ会、京丹波吹奏楽団
平成24年 11月17日(土)	和知人形浄瑠璃会、和知太鼓保存会、小畑万歳保存会、大正琴同好会、すみれ会、かつみ会、京丹波吹奏楽団
午前11時00分 開演	
平成25年 1月26日(土)	和知人形浄瑠璃会、しゃくなげ会、かつみ会、柳姿会、京丹波吹奏楽団
平成25年 2月23日(土)	和知人形浄瑠璃会、和知太鼓保存会、小畑万歳保存会、京丹波吹奏楽団
平成25年 3月23日(土)	和知人形浄瑠璃会、神心流吟と舞教室、大正琴同好会、すみれ会、京丹波吹奏楽団

※開演時間は、午後1時30分から(11月を除く)。変更の場合もありますので、詳細はお問い合わせください。

K2

人形浄瑠璃クラブ発表

◎時期：京丹波町町民文化祭で発表(11月予定)6年生を送る会で発表(3月予定)

◎場所：京丹波町立和知小学校 他

〒629-1121 京都府船井郡京丹波町本庄安田7

■お問い合わせ先…京丹波町立和知小学校(担当：中尾純子 桐亜希)

●〒629-1121 京都府船井郡京丹波町本庄安田7 ●TEL.0771-84-9061 ●FAX.0771-84-1780

●E-mail:wachi-es@kyoto-be.ne.jp

■主催：京丹波町立和知小学校人形浄瑠璃クラブ 共同する団体名：和知人形浄瑠璃会

京丹波町立和知小学校人形浄瑠璃クラブ

和知小学校ではクラブ活動の時間に和知人形浄瑠璃会の方に指導に来ていただき、伝統の演目「傾城(けいせい)阿波之鳴門」の練習に励んでいる。4・5年生は「語り」、6年生が「人形遣い」の役で、大人が1人で使う人形を2人1組で操る。

語りは声の出し方やセリフの言い回しが難しいので、はじめてクラブに入った児童は戸惑うことも多いが、浄瑠璃会の方に教えてもらいながら次第に上達していく。

発表の場としては、「6年生を送る会」で保護者や校区住民の方に見ていただき、「京丹波町町民祭」にも出演し町民の皆様に見ていただいている。

平成23年度は、国民文化祭で発表する機会に恵まれた。人形浄瑠璃をされている全国の皆様と一緒に出演することで良い刺激を受けると同時に自信にもつながった。その後、京都市

町村教育委員研修会で披露することができ好評をいただき、和知小人形浄瑠璃クラブここにありと、その存在を見せることができた。

このような功績が認められ平成23年度京丹波町文化賞・輝き賞を受賞した。

今後さらに、練習に力を入れ、和知人形浄瑠璃の発展と継承に力を入れたいと考えている。あわせて、和知人形浄瑠璃を関西だけでなく広く全国に広めていきたい。



国民文化祭での発表の様子



人形の操作を練習する児童



国民文化祭での発表の様子

(写真出典:京丹波町立和知小学校)

01 華やかなる乙女文楽・吉田光華の世界

①地歌で舞う乙女文楽 ②長唄で舞う乙女文楽 ③義太夫で舞う乙女文楽

◎時期：①平成24年7月28日 ②平成24年8月22日 ③平成24年11月29日

◎場所：①薬業年金会館 ②懐石料理・楽待庵 ③道頓堀ZAZA

■お問い合わせ先…乙女文楽・光華座事務所（担当：吉田 光華）

●〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺3丁目2-18 ●TEL.06-6697-4925 ●FAX.06-6697-4926

●URL:http://www.otomebunraku.com ●E-mail:info@otomebunraku.com

■主催：乙女文楽・光華座

乙女文楽とは

女性が一人で文楽と同じ一体の人形を遣って演じます。大正時代の末期頃に大阪で誕生し、当時は大変な人気でしたが、後継者不足や戦争などで次第に衰退していきました。この大阪で生まれた文化である乙女文楽を復活させようと、平成4年に当時相愛大学助教授であった故土井順一氏が、乙女文楽の考案者の娘である吉田光子氏を講師に招き、乙女文楽の公開講座を開かれたことが、吉田光華の出発点になりました。本来、人形と義太夫で演じることを、伝統的な邦楽の演目にも取り組み、一人遣いの乙女文楽・光華座として女流義太夫・筑前琵琶などと共演、さらに活動の幅を広げています。日本各地での公演の他、フランス、オランダ、オーストリア、カナダ、韓国などで海外公演も多数。



静御前



新道成寺



茄子とかぼちゃ

吉田光華の活動

長年培った日本舞踊の素地を生かし、伝統の上に独自の感性を重ねて、義太夫はもとより、新内・長唄・常磐津・小唄・琵琶・箏・尺八などの邦楽に合わせ、従来にない演目を振り付け創作。また、故五代目桂文枝の落語「天神山」の断に合わせた人形遣いが好評を得て、『上方落語と乙女文楽』として、数々の舞台を経験。文楽人形遣いの故吉田文吾氏との共演、椎名林檎CDアルバムのTV・CM出演の他、狂言・浪曲・朗読など、さまざまなジャンルとコラボレーションして乙女文楽の新境地を開拓、“古典芸能に馴染みのない方にも楽しんでいただく”を信条に、幅広く活動中。



現代邦楽で舞う乙女文楽



大阪発のこの素晴らしい日本の芸能文化を、さらに広く、さらに多くの方々に楽しんでいただきたいと願っております。

催しの内容

（お問い合わせ・ご予約は光華座までご連絡ください。TEL.06-6697-4925）

「地歌で舞う乙女文楽」

■演目

- 新道成寺 ●おもいのたけ ●祇園小唄 ●ワークショップなど

- 日時／平成24年7月28日（土）14時開演
- 会場／薬業年金会館
（大阪市営地下鉄「谷町六丁目」駅4番出口すぐ）
- 料金／2,500円

「長唄で舞う乙女文楽」

■演目

- 藤娘 ●黒髪 ●ワークショップなど

- 日時／平成24年8月22日（水）11時～食事後公演
- 会場／懐石料理・楽待庵
（大阪市営地下鉄・京阪「天満橋」駅より
OMMビル21F）
- 料金／食事付7,000円

「義太夫で舞う乙女文楽」

■演目

- 義経千本桜《静御前初音の旅》
- 艶容女舞衣《酒屋の段》
- ワークショップなど

- 日時／平成24年11月29日（木）18時開演
- 会場／道頓堀ZAZA
（大阪市営地下鉄・近鉄奈良線「難波」駅
14番出口より約3分）
- 料金／3,000円

（写真出典：乙女文楽・光華座）

浄瑠璃の里 能勢

◎時期：通年

◎場所：浄るりシアター及び全国

〒563-0352 大阪府豊能郡能勢町宿野30 (浄るりシアター)

■お問い合わせ先…浄るりシアター (担当：乾)

●〒563-0352 大阪府豊能郡能勢町宿野30 ●TEL.072-734-3241 ●FAX.072-734-3240

●URL: <http://www.jyoruri.jp> ●E-mail: gyoruri@town.nose.osaka.jp

■主催：能勢町 共同する団体名：浄るりシアター／能勢人形浄瑠璃鹿角座／伝統文化の黒衣隊

おおさかのてっぺん 能勢の浄瑠璃200年

能勢町は大阪の最北端「おおさかのてっぺん」に位置し、豊かな自然と多くの文化遺産に囲まれた美しい町です。この能勢の土地に江戸時代後期から200年にわたり浄瑠璃が受け継がれ語り継がれてきました。

〈能勢の浄瑠璃〉は語りと太棹三味線によって物語が進行する素浄瑠璃で、能勢の文化的風土のもと、農業の傍ら土地固有の芸事として庶民によって創られ伝えられ続けた大切な芸能です。竹本文太夫派・竹本井筒大夫派・竹本中美太夫派があり、互いに励まし競い合っその伝統を継承してきましたが、2001年に新しく竹本東寿太夫派が誕生し、4派となりました。家元制度とは違った“おやじ制度”と呼ばれる他に類例をみない継承方法などから、日本の文化遺産としても貴重な存在とされ、1993年に大阪府指定無形民俗文化財、1999年には国の無形民俗

文化財の選択を受けています。

1993年、地域の文化・芸術活動の拠点として〈浄るりシアター〉が開館し、①住民のニーズに応えた鑑賞事業 ②個人やグループの文化活動に対するサポート ③地域にふさわしい文化創造活動の推進 ④観光の推進の4つを柱とし、こだわりを持った事業を展開しています。



能勢の浄瑠璃稽古風景 (昭和初期)



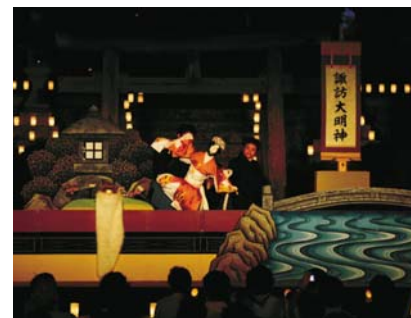
浄るりシアター外観

その事業のひとつとして、〈能勢の浄瑠璃〉を地域の財産として守り育てていくとともに、次の世代への提案と発展のため、1998年に人形と囃子を加え能勢人形浄瑠璃がデビューし、〈能勢人形浄瑠璃鹿角座 (ろっかくざ)〉として活動しています。平成生まれの能勢人形浄瑠璃は、古典を重んじながらも、人形首 (かしら) は人形彫師と議論し新しい創作を行い、人形衣裳は軽さと多様な表現を演出するため洋服生地を使用するなど、能勢のオリジナルを意識した舞台創りを行なっています。

太夫・三味線・人形遣い・囃子・こども浄瑠璃があり、監修に竹本住大夫師匠 (人間国宝・人形浄瑠璃文楽座太夫) 吉田簀助師匠 (人間国宝・人形浄瑠璃文楽座人形遣い)、指導者に人形浄



能勢人形浄瑠璃鹿角座公演



神社公演

瑠璃文楽座の技芸員などを迎え、年間を通して行なわれるワークショップを受けながら、毎年6月に開催する能勢人形浄瑠璃鹿角座公演のほか、神社公演、年間30件を超える依頼公演などに活動しています。また、地元の欄間業者や歯科技工士達がユニットを組み、〈伝統文化の黒衣隊〉を結成し、自らの技術を活かし浄瑠璃道具を制作・修繕するなど、その技術の提供を地元だけでなく全国にも広げています。このことは、全国人形浄瑠璃団体のネットワーク構築にも着手するなど、地域を巻き込んだ〈人形浄瑠璃〉を支える結果となっています。

地域に根ざし、地域と共に、浄瑠璃に関する全てが揃う「浄瑠璃の里 能勢」として、おおさかのてっぺんから全国・世界に発信しています。



能勢人形浄瑠璃鹿角座公演



職人の技 (伝統文化の黒衣隊)

初心者のための上方伝統芸能ナイト

◎時期：毎月第1・第3土曜日のうち随時
 (ただし6月以降2カ月程度、改修工事のため公演中断予定)

◎場所：山本能楽堂
 〒540-0025 大阪市中央区徳井町1-3-6

■お問い合わせ先…公益財団法人山本能楽堂 (担当：山本佳誌枝)
 ●〒540-0025 大阪市中央区徳井町1-3-6 ●TEL.06-6943-9454 ●FAX.06-6942-5744
 ●URL:<http://www.noh-theater.com/> ●E-mail:info@noh-theater.com

■主催：公益財団法人 山本能楽堂
 共同する団体名：大阪商工会議所 (共催) / 大阪市 (共催) / 財団法人 大阪観光コンベンション協会 (協力)

4種類の上方伝統芸能のハイライトを楽しい解説付きで公演。 文楽・素浄瑠璃も随時上演。

大阪で育まれた豊かな文化・芸能を広く一般の方に楽しんで頂くため、文楽をはじめ、能、狂言、上方舞、講談、落語、浪曲、お座敷遊びなどジャンルの垣根を超えた、様々な上方伝統芸能の演者達が協力して企画・出演し、地元住民や観光客に提供する新たな夜型エンターテインメント。

平成18年12月に前身公演を行い、計15回の試行上演を経て、平成20年4月より毎月第1・3土曜日の定期公演を開始。平成24年3月までの通算107回の公演に1万人以上が来場。毎回の公演で英語・中国語・韓国語の解説字幕を投影するほか、全編英語公演を実験的に実施するなど、外国人対応を積極的に行っている。

舞台と客席が近い能舞台で、文楽や素浄瑠璃を上演することで、大夫の語りや三味線の音を間近で堪能できるほか、劇場では見られない人形遣いの足さばきが見られると、文楽ファンに

も好評を得ている。

大阪は、たこ焼きやお笑いだけの街であると思われがちであるが、多彩な芸能が育まれた「文化集積都市」であり、その豊かな文化をアピールすることができる、大阪でしか出来ない、大阪で生まれた、大阪独自の公演として、文化の力で大阪を元気にしていくことを目指している。



上方伝統芸能ナイトでの文楽上演 (渡海屋・知盛)



山本能楽堂 舞台



上方伝統芸能ナイトでの素浄瑠璃上演

04

上方文化講座2012「絵本太功記」

◎時期：平成24年8月29・30・31日

◎場所：大阪市立大学学術情報総合センター
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

■お問い合わせ先…大阪市立大学大学院 文学研究科・文学部（担当：濱田 誠治）

●〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 ●TEL.06-6605-2350 ●FAX.06-6605-2357

●URL: <http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/> ●E-mail: hamada@ado.osaka-cu.ac.jp

■主催：大阪市立大学大学院 文学研究科・文学部

文楽界の名手と大阪市立大学のコラボレーション！

上方文化講座は2004年度より開設された文学部の特別授業科目です。大阪の地に歴史的に育まれた文化、わけても伝統芸能「文楽（人形浄瑠璃）」に光をあて、学問的体系のもとに学ぼうとするものです。

その第一の特色は、文楽界の中核を担う名手、竹本津駒大夫（太夫）・鶴澤清介（三味線）・桐竹勘十郎（人形遣い）の三師を学外非常勤講師としてお迎えし、文学研究科スタッフとの共同作業により授業を組み立てていく点にあります。さらに第二の特色として、それが文学部の正規の授業科目であるとともに、一般市民にも公開して行われる点を挙げることができましよう。

大阪市設置の公立大学に相応しい、教育・研究・社会貢献の三者が一体となった事業として、従来の公開講座の類とは一線を画した内容を有しています。

第9回目の今年度は、『絵本太功記』尼ヶ崎の段を取り上げます。語り・三味線の聴き所が多く、人形の見せ場も多彩で、時代物のエッセンス満載の名作です。

講座内容や受講者募集の詳細は、5月頃発表の予定です。多数のご応募をお待ちしております。



素浄瑠璃実演（津駒大夫師・清介師）



昨年度授業風景 三師による談話



「生写朝顔話」大井川の段実演（勘十郎師）

（写真出典：昨年度講座記録写真）

高津小子ども文楽発表会

●時期：平成24年11月23日(金) 但し、一般の方の見学はできません。
直前のリハーサルは見学いただけます。

●場所：大阪市立高津小学校内 講堂
〒542-0072 大阪市中央区高津3-4-21

■お問い合わせ先…大阪市立高津小学校 (担当：中山 吉一)

●〒542-0072 大阪市中央区高津3-4-21 ●TEL.06-6643-2700 ●FAX.06-6643-0390

●URL:<http://www.ocec.jp/school/index.cfm/6,0,15,54.html> ●E-mail:e051105a@ocec.ne.jp

■主催：大阪市立高津小学校

(1) 取組の概要

6年生が、国立文楽劇場出演の人形遣い3世桐竹勘十郎さんをはじめ、同じく太夫の豊竹咲甫大夫さん、三味線の鶴澤清道さん鶴澤清公から三業それぞれの指導を受けた。演目「二人三番叟」「鬼一法眼三略の巻 五条橋の段」を学習した。



【鬼一法眼三略の巻五条橋の段】
牛若丸と弁慶の立ち合いの場面

(2) 教育課程上の位置付け

総合的な学習の時間として75時間学習した。三業に分かれて技芸員の方からの直接指導延べ43時間である。その事前事後の学習時間の他に文楽劇場での鑑賞教室の見学や劇場場内で首(かしら)、床山、衣装、舞台装置の裏方の現場見学で、学習を深めた。



発表会前の授業で
人形遣いの
桐竹勘十郎氏に
主遣いの
手ほどきを受ける

(3) 指導の実際

文楽について、自由研究として自ら文楽について調べたあと、太夫、三味線、人形遣いのどの役を担当するか決めて、学習を進める。三業に分かれてそれぞれの技芸員の方から直接に稽古をつけてもらう。教わったことを繰り返し練習して少しずつ技能を身に付けていく。秋の学習発表会でその成果を披露する。



【二人三番叟】開演を祝う舞を演じている場面



床に勢ぞろいして演じる太夫、三味線の子どもたち

(写真出典:高津小学校)

06

定期公演「いずみ子ども文楽2013」

◎時期：平成25年3月下旬

◎場所：和泉シティプラザ「弥生の風ホール」

〒594-0041 大阪府和泉市いぶき野5丁目4番7号

■お問い合わせ先…いずみ子ども文楽の会（担当：高橋 俊宗）

●〒594-0041 大阪府和泉市いぶき野3丁目3番1号 和泉市立いぶき野小学校内

●TEL.0725-57-0035 ●FAX.0725-57-0218

●E-mail:toshimunejii@ican.zaq.ne.jp

■主催：いずみ子ども文楽の会

定期公演「いずみ子ども文楽2013」

和泉市には縄文時代の環濠集落跡「池上曾根遺跡」や弥生時代の集落跡、律令時代の国府跡など古代から開かれた場所であることを示す遺跡がたくさんある。また、人形浄瑠璃に関しては、「芦屋道満大内鑑」の葛の葉で有名な信太の森があり文楽とはゆかりが深い。

本会は大阪発祥の伝統芸能である人形浄瑠璃を子どもたちが演じることで、豊かな文化を育ててきた大阪は和泉の地から文楽の面白さや楽しさを発信しようと取り組みをはじめた。

現在、和泉市は人口20万人を目指す勢いのある市であり、取り分け本会が活動の拠点としている「いぶき野」は市の中央丘陵に開かれた新しい街である。

伝統芸能人形浄瑠璃と新しい街の子どもたち。両極の存在ともいえるこの二つが不思議なえにして結ばれ活動を始めて、間もなく10年になろうとしている。この間、こどもたちに「本物の人形浄瑠璃」を演じさせたいと、NPO法人人形

浄瑠璃文楽座はプロの技芸員さんたちの継続した指導を受け、例年3月の末には和泉シティプラザ「弥生の風ホール」を舞台として定期公演を実施する。

また、市内や近隣市の高齢者介護施設等を慰問し「寿式三番叟」や「傾城阿波の鳴門」を演じるほか、日程が合えば要請に応じて各種のレセプションやイベントにも出演し喜んでいただいている。



介護老人施設での慰問公演の一幕



二人三番叟を演じる子どもたち



本格的な舞台を借りて「傾城阿波の鳴門」を演じる。

(写真出典：いずみ子ども文楽の会)

能勢人形浄瑠璃と万博公園早朝観蓮会との共演

●時期：平成24年7月中旬（詳細は万博記念公園HPにて／6月上旬掲載予定）

●場所：万博記念公園 日本庭園「はす池」及び「こい池」休憩所
〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園

■お問い合わせ先…独立行政法人 日本万国博覧会記念機構（担当：平田 清）

●〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園1番1号 ●TEL.06-6877-3497 ●FAX.06-6877-8459

●URL:<http://www.expo70.or.jp> ●E-mail:info@expo70.or.jp

■主催：独立行政法人 日本万国博覧会記念機構 共同する団体名：能勢人形浄瑠璃鹿角座

初共演 万博公園早朝観蓮会&象鼻杯と能勢人形浄瑠璃公演

万博記念公園日本庭園は、1970年日本万国博覧会の開催にあわせ、政府の出席施設として、日本の造園技術の粋を結集し造られた昭和の名園です。この庭園は、平安時代から鎌倉・室町、江戸時代、そして現代と4つの時代ごとの作庭様式をイメージして造られています。

各時代の庭を流れる水流には、同博覧会のテーマである「人類の進歩と調和」を時の流れにたくし一体的な庭園の演出も行っています。

今回初めての試みとして能勢人形浄瑠璃鹿角座と共演する早朝観蓮会&象鼻杯では、型にはまった浄瑠璃を逸脱し、能勢オリジナルとして現代社会に受け入れ易く、親しみが持てる人形芝居の演出を行います。

庭園の歴史と伝統芸能との調和を身近に体感いただく絶好の機会ですので、多数のご来園をお待ちしております。



早朝観蓮会



ハナハス（品種：大賀蓮）



象鼻杯



能勢人形浄瑠璃公演状況（平成23年11月日本庭園にて）

H1

人形芝居のふるさとづくり 「えびすかき」から「人形浄瑠璃」へ

◎時期：平成24年6月9日(土)

◎場所：西宮市立浜脇小学校
〒662-0941 西宮市浜脇町5-48

■お問い合わせ先…戎座人形芝居館(担当：武地 秀実)

●〒662-0915 西宮市馬場町6-26 ●TEL.0798-55-8099 TEL.0798-39-1723 ●FAX.0798-39-1724

●URL: <http://ebisuza.com> ●E-mail: info@ebisuza.com

■主催：西宮浜脇のふるさとづくり実行委員会／戎座人形芝居館

共同する団体名：西宮市／西宮文化振興財団／西宮市教育委員会／西宮市立浜脇小学校／西宮市立浜脇中学校／浜脇小学校PTA
阪神人形劇連絡協議会／兵庫県立西宮今津高校美術部／西宮中央商店街振興組合／西宮地区自治連合会／西宮神社／淡路文化会館

人形芝居のふるさとづくり 人形芝居「えびすかき」から「人形浄瑠璃」へ

戎座人形芝居館は、西宮神社の門前町として栄えた戎参道の中にあります。この場所は人形浄瑠璃の源流といわれる「えびすかき」の発祥の地。その文化遺産を子どもたちにつたえ、人と人の触れ合いづくりを主眼に活動しています。

「西宮浜脇のふるさとづくりえびすかき～人形浄瑠璃」は今年で4回目となる事業。人形芝居えびす座による「えびすかき」、西宮神社の



人形芝居えびす座による「えびすかき・舞」

興しや伝説に添った人形浄瑠璃「えびす舞」を作り演じることを目的にして作られた人形浄瑠璃西宮戎舞研究会による「戎舞」、さらに、南あわじ市立南淡中学校の郷土芸納部のみなさ

んによる人形浄瑠璃を要にして、その歴史的な流れを見ていただくものです。また、ふるさとづくりとして小学校PTAや中学生などの協力を得たプログラムも交え、地域が一丸となってつくりあげています。

戎座人形芝居館では、毎月第3土曜日に「えびすかき」による「えびす舞」と地域の人形劇団による人形劇・紙芝居を上演。狂言・生け花・落語・お茶などの伝統芸能ほか、伝統独楽回し等を定例化して、地域住民が気軽に集える場所作りをしています。



南あわじ市立南淡中学校郷土芸納部のみなさんによる淡路人形浄瑠璃



人形浄瑠璃西宮戎舞研究会による「戎舞」



戎座人形芝居館で月1回上演される「えびすかき」や「人形劇」をたのしむ子どもたち

(写真出典：戎座人形芝居館)

酒屋万来文楽

◎時期：平成24年10月27日(土)

◎場所：白鷹緑水苑 宮水ホール
〒662-0926 兵庫県西宮市鞍掛町5-1

■お問い合わせ先…「西宮発・今、伝統芸能」実行委員会(担当：辰馬朱満子)

●〒662-0926 兵庫県西宮市鞍掛町5-1 白鷹緑水苑内 ●TEL.0798-39-0235 ●FAX.0798-39-0236

●URL:<http://www.hakutaka-shop.jp/>(7月頃にトップページにアップし、詳細にリンクします)

イベント後記 <http://www.hakutaka-shop.jp/event/index.html>(昨年と一昨年の内容はこちらでご覧いただけます)

●E-mail:event@hakutaka-shop.jp

■主催：「西宮発・今、伝統芸能」実行委員会 共同する団体名：白鷹緑水苑(共催)

造り酒屋で愉しむ文楽事始め

西宮は人形浄瑠璃の源流「傀儡師」発祥の地といわれ、西宮神社の門前町として発展した同市には、古くから多くの芸能者が集まり、地域に賑わいをもたらしてきた。同時に名水「宮水」を生む西宮は、全国でも有数の「酒の町」でもある。中世以来「西宮の旨酒」として知られる銘酒を産してきた酒都、西宮が芸能、とりわけ人形浄瑠璃とゆかりの深い町であることは、地域の重要なアイデンティティーといえる。そこで、西宮の造り酒屋で人形浄瑠璃の会を開催することによって、芸能と深い縁がある西宮、そして酒の町として歴史を刻んできた西宮の再発見につなげ、地域の魅力を内外に発信しようというのが本事業の目的である。平成20年より西宮の酒蔵通りにある、かつての造り酒屋の住居を再現した文化施設、白鷹緑水苑にて、西宮在住の人間国宝、吉田文雀氏を中心とした「酒屋万来文楽」を開催。収容人数100人ほどの会場には、かつての芝居小屋を思わせるような濃密な雰

囲気が漂い、間近でふれる人形の所作や感情表現、義太夫、三味線の圧倒的な迫力が、より一層人形浄瑠璃の魅力を実感させる。また演者自らがわかりやすく人形や演目について解説し、質疑応答を行うことによって、愛好者のみならず、初心者に対して人形浄瑠璃への理解を促すよう積極的にアプローチしている。また、幕間にふるまわれる蔵元ならではの蔵出し限定酒も楽しみのひとつとなっている。



吉田文雀氏の関寺小町「花競四季寿」より
(写真出典：平成21年 酒屋万来文楽「西宮発・今、伝統芸能」実行委員会)



吉田文雀氏による人形の解説「艶容女舞衣 酒屋の段」より
(写真出典：平成20年 酒屋万来文楽「西宮発・今、伝統芸能」実行委員会)



吉田文雀氏の方と和生氏の良弁権正「良弁杉由來 二月堂の段」より
(写真出典：平成23年 酒屋万来文楽「西宮発・今、伝統芸能」実行委員会)

H3

近松ナウ

◎時期：平成24年9月～平成25年3月

◎場所：市内全域

■お問い合わせ先…公益財団法人 尼崎市総合文化センター（担当：足立 学）

●〒660-0881 尼崎市昭和通2丁目7-16 ●TEL.06-6487-0910 ●FAX.06-6482-3503

●URL: <http://www.archaic.or.jp/>

■主催：公益財団法人 尼崎市総合文化センター／尼崎市

尼崎市には、市内久々知の広済寺に近松門左衛門が眠る墓所（国指定史跡）があります。近松は、広済寺の当時の住職と親交があったことから、晩年しばしば同寺を訪れ、本堂裏に明治の末まであった近松部屋で数々の作品を執筆したと伝えられています。

近松とゆかりの深い尼崎市では、1986年市制70周年を契機に「近松のまち・あまがさき」として、多彩な文化事業を展開しています。その中の「近松ナウ」では、毎年9月から翌年3月

末までに開催される、近松にちなんだ文楽公演や人形劇、切り絵作品展、川柳句会などの各種催しや市民活動を、近松を現代によみがえらせる一連のイベントとしています。

10月に開催される、大近松祭では、人間国宝・吉田文雀さんらによる文楽公演や近松応援団人形部の皆さん、下坂部小学校浄瑠璃クラブの皆さんによる近松ゆかりの芸能が披露されます。



大近松祭 文楽公演 人間国宝 吉田文雀



大近松祭 近松音頭 近松音頭保存会



大近松祭 浄瑠璃 下坂部小学校浄瑠璃クラブ



近松座像（近松公園内）

（写真出典：尼崎市）

近松記念館資料展示室の公開

◎時期：平成24年4月～平成25年3月

(毎週水曜日、毎月第2日曜日、8月13日～16日、12月29日～1月7日を除く) 午前10時～午後4時

◎場所：財団法人近松記念館

〒661-0977 兵庫県尼崎市久々知1丁目4-38

■お問い合わせ先…財団法人 近松記念館 (担当：古川九一郎)

●〒661-0977 兵庫県尼崎市久々知1丁目4-38 ●TEL.06-6491-7555 ●FAX.06-6491-7555

●URL:<http://hccweb5.bai.ne.jp/tikamatukinenkan/>

■主催：財団法人 近松記念館

近松記念館資料展示室公開

日本を代表する劇作家の一人近松門左衛門(1653～1724)は、晩年に日昌上人の廣濟寺の再建に協力し、また深く帰依し、亡母の供養なども行いました。そういった折に寄進したと思われる多くの文物が遺されており、それらを展示しているのが、(財)近松記念館資料室です。

近松は生涯尼崎に住むことはありませんでしたが、尼崎をこよなく愛し度々廣濟寺を初めとする久々知の地を訪れました。彼が亡くなったとき、妻は大坂谷町の法妙寺とは別にこの廣濟寺にも墓を建立しました。

近松が尼崎を愛したように、尼崎の人々もまた近松を敬愛し、その偉業を讃え顕彰するために近松記念館を作りました。この記念館は地元市民の熱い思いによって創設された施設です。

毎年10月の最終日曜日には、廣濟寺・記念館で「大近松祭」が行われ、尼崎市民の近松への思いがひしひしと伝わってきます。



近松が愛用したと伝えられる文机・硯・筆



廣濟寺過去帳
二十三日(近松命日)



「大近松祭」墓前祭(文楽人形による焼香)



近松記念館正面

(写真出典:財団法人近松記念館)

H5

1 「近松講座」 2 閲覧室公開

◎時期：①①前期4月～7月の金曜午後 ②後期10月～12月の金曜午後 いずれも10回
② 平日10時～17時（大学の長期休暇中を除く）

◎場所：園田学園女子大学

〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1

■お問い合わせ先…園田学園女子大学近松研究所（担当：水田 かや乃）

●〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1 ●TEL.06-6429-9928 FAX.06-6429-9922

●URL:<http://www.sonoda-u.ac.jp/chikamatsu> ●E-mail:chikamatsu@sonoda-u.ac.jp

■主催：園田学園女子大学近松研究所

近松門左衛門に親しむ

東洋のシェイクスピアとも称される日本の代表的劇作家のひとりである近松門左衛門の名を冠した当研究所では、園田学園女子大学の附属研究機関として近松を含む古典芸能・演劇に関する研究を推進しています。またその一方で、その結果得られた研究成果を広く一般に公開し、市民のみならず「近松に親しんでいただく」ための業務も並行して行っています。

みなさまに「近松に親しんでいただく」ための代表格が1年度に2回開催する「近松講座」であり、閲覧室の公開です。

「近松講座」は、研究所の研究員が担当し、毎回、近松やその周辺の芸能・演劇等に関する最先端

の研究成果を、わかりやすく丁寧に解説し、受講者の興味・関心をひきだすように努めています。

また閲覧室の公開は、研究所の保有している、芸能・演劇およびその周辺に関する専門的研究書はもちろんですが、入門書はては漫画までも含めて、利用者の興味・関心に合わせてご覧いただくためのサービスです。さらに、紙ベースの資料の他に、浄瑠璃・歌舞伎のDVDやビデオ・CDも取り揃えており、同様にご利用いただけます。

「近松講座」は受講料を頂戴しますが、閲覧室は、開室時間内であれば手続きなしでいつでもどなたでも無料でご利用いただけます（特別資料は事前申請の必要あり）。



（近松と同一年の桜木の）
近松研究所看板



「三十六佳撰 桜人形」（錦繪）



「文楽座人形芝居」（英ノブ作木版画絵はがき）

（写真出典：園田学園女子大学近松研究所）

神戸女子大学古典芸能研究センターの事業

◎時期：通年（※閲覧日時は別に定める）

◎場所：神戸女子大学古典芸能研究センター

〒650-0004 神戸市中央区中山手通2丁目23-1 神戸女子大学教育センター2階

■お問い合わせ先…神戸女子大学 古典芸能研究センター（担当：山崎 敦子）

●〒650-0004 神戸市中央区中山手通2丁目23-1 神戸女子大学教育センター2階 ●TEL.078-231-1061 ●FAX.078-231-1211

●URL: <http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/geinou/> ●E-mail: geinou@suma.kobe-wu.ac.jp

■主催：神戸女子大学 古典芸能研究センター

神戸女子大学古典芸能研究センターの事業

神戸女子大学古典芸能研究センターは、古典芸能に関する調査・研究ならびに社会への学的貢献を目的として開設された研究施設です。浄瑠璃・歌舞伎をはじめ、能・狂言、民俗芸能に関する書籍・資料を幅広く備え、学内・学外、学生・

社会人を問わず利用することができます。所蔵資料の公開を中心に、展示や特別講座、シンポジウム、講演会等を開催しています。

最新情報は古典芸能研究センターホームページに掲載していますので、ぜひご覧下さい。



利用案内

◆閲覧場所 古典芸能研究センター閲覧室

※図書・資料の貸出は行っていません。

◆閲覧日時 月～金曜日 午前10時～午後5時

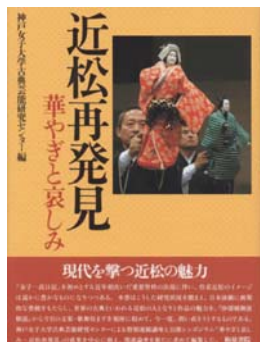
※祝祭日、大学記念日その他臨時閉室期間を除く。



古典芸能や民俗芸能とその周辺世界を、より身近により深く理解できるよう、常設展や特別展を開催しています。



多彩な講師陣によるオムニバス形式の特別講座や、第一線の研究者や演者による講演会などを企画しています。



事業の成果は刊行物を通じて発表しています。

（本の出典：『近松再発見 華やきと哀しみ』神戸女子大学古典芸能研究センター編、2010年、和泉書院）

（写真出典：神戸女子大学古典芸能研究センター）

H7

～人形浄瑠璃街道推進事業～淡路人形浄瑠璃魅力発信事業(仮称)

●人形浄瑠璃の公演 ●人形浄瑠璃野掛け公演 ●人形浄瑠璃体験教室など

◎時期：平成24年6月、7月、10月、平成25年2月(予定)

◎場所：県立芸術文化センター ほか
淡路市、京都市、西宮市

■お問い合わせ先…兵庫県立淡路文化会館(担当：松本)

●〒656-1521 兵庫県淡路市多賀600 ●TEL.0799-85-1391 ●FAX.0799-85-0400

●E-mail:matsumoto@hyogo-ikigai.jp

■主催：淡路人形浄瑠璃魅力発信事業実行委員会(仮称)

共同する団体名：兵庫県淡路県民局(予定)／兵庫県立淡路文化会館(予定)

淡路の伝統芸能である人形浄瑠璃の振興

国指定重要無形民俗文化財「淡路人形浄瑠璃」は、時代物・世話物といわれる外題の中で、日本人が昔から大切にしてきた義理人情の世界を見事に描写した、世界に誇る日本の伝統芸能です。

この淡路人形浄瑠璃の振興を図るため、“人形浄瑠璃のふるさと”西宮～淡路～徳島～京

都を『人形浄瑠璃街道』と位置づけ、「淡路人形浄瑠璃魅力発信事業」と銘打ち、様々な公演事業に取り組みます。

この事業を通し、淡路人形浄瑠璃の魅力を関西から全国へ発信するとともに、保存・継承と後継者育成の機運を高めます。



淡路人形座
「仮名手本忠臣蔵 一力茶屋の段」



南あわじ市立南淡中学校郷土部
「絵本太公記十段目 尼崎の段」



淡路人形浄瑠璃青年研究会
「鬼一法眼三略の巻 五条橋の段」



福井子供会人形浄瑠璃部
「傾城阿波咄門 順礼歌の段」

(写真出典：淡路文化会館)

～人形浄瑠璃街道推進事業～ 淡路人形浄瑠璃後継者交流発表会（仮称）

◎時期：平成24年7月21日（土）～22日（日） 21日：交流会 22日：公演

◎場所：21日 国立淡路青少年交流の家 22日 南あわじ市三原公民館
〒656-0543 南あわじ市阿万塩屋町757-39 〒656-0475 南あわじ市市三條880

■お問い合わせ先…兵庫県立淡路文化会館（担当：松本）

●〒656-1521 淡路市多賀600 ●TEL.0799-85-1391 ●FAX.0799-85-0400

●E-mail:matsumoto@hyogo-ikigai.jp

■主催：淡路人形浄瑠璃後継者交流発表会実行委員会（仮称）

共同する団体名：財団法人 淡路人形協会（予定）／兵庫県淡路県民局（予定）／兵庫県立淡路文化会館（予定）

淡路の伝統芸能である人形浄瑠璃の振興

全国の人形芝居に大きな影響を与えた国指定重要無形民俗文化財「淡路人形浄瑠璃」は、兵庫県が全国に誇る伝統芸能の“宝”です。伝統芸能を継承する後継者団体は、全国に先駆けたもので非常に注目されています。

そのような中、今日、学校教育の中でも、次世代を担う若者たちが国際社会の中で自国の文化を理解し、継承していくことは大変重要なことであると言われてしています。

そこで、淡路人形浄瑠璃やそれが伝播した阿波人形浄瑠璃をはじめ、淡路に影響を受けた全国の人形浄瑠璃後継者団体等と連携し、人形浄瑠璃の公演や鑑賞、交流の場を設け、後継者の育成につながる機会とするとともに、各団体のネットワーク化と全国への情報発信を積極的に推進します。



兵庫県立淡路三原高等学校郷土部「増補大江山 戻り橋の段」



交流会（部活動見学）
南あわじ市立三原中学校郷土部
京都府京丹波町立和知中学校



南あわじ市立三原中学校郷土部
南あわじ市立南淡中学校郷土芸能部
兵庫県立淡路三原高校郷土部
による合同三味線演奏



交流会（意見交換会）
兵庫県立淡路三原高等学校郷土部
南あわじ市立三原中学校郷土部
南あわじ市立南淡中学校郷土芸能部
京都府京丹波町立和知中学校
徳島県立勝浦高等学校民芸部

（写真出典：淡路文化会館）

H9

淡路人形座 定期公演

◎時期：4月1日から6月17日、8月8日以降

◎場所：4月から6月 淡路人形浄瑠璃館（大鳴門橋記念館内）

〒656-0503 兵庫県南あわじ市福良兵936-3

◎場所：8月8日以降 淡路人形座

〒656-0501 兵庫県南あわじ市福良甲1528-1地先

■お問い合わせ先…淡路人形座（担当：松山 光代）

●〒656-0503 兵庫県南あわじ市福良丙936-3 ●TEL.0799-52-0260 ●FAX.0799-52-3072

●URL:<http://awajiningyoza.com/> ●E-mail:awaji-pt@sansan-net.jp

■主催：財団法人 淡路人形協会（8月から公益法人に移行予定）／淡路人形座

くにうみの島から日本全国へ、世界各国へ発信する人形浄瑠璃の殿堂 淡路人形座

鎌倉時代に大阪の四天王寺から樂人が移り住み、その子孫たちが人形操りの技術を受け入れたのが淡路人形の始まりと考えられています。1570年引田源之丞が従四位下叙せられ、江戸時代の終わりまでは毎年淡路から12名の役者が選ばれ、お正月に天皇一家の一年の幸せを祈るために上洛していました。18世紀のはじめには淡路に930人もの人形遣いがいて、40座以上の座本が全国各地へ巡業して人々を楽しませ



淡路人形の神事 三番叟奉納



「賤ヶ嶽七本槍 清光尼庵室の段」

ました。殿様や全国各地の農民・漁師・商人など様々な人々に愛された淡路人形浄瑠璃には上方の町人の文化として発展した文楽にはない演目や演出がありました。8月8日グランドオープンする新会館では、従来の演目に加え、淡路独自の演目や演出の芝居、より豊富で充実し



「一谷嫩軍記 須磨の浦組討の段」

た芝居の上演を予定しています。素朴な祈りの心から始まり精練された舞台芸術・淡路人形浄瑠璃を観るために淡路島にお越しください。



「日高川入相花生 渡し場の段」

(写真出典:淡路人形座)

淡路人形浄瑠璃関係資料の展示

◎時期：通年

◎場所：南あわじ市淡路人形浄瑠璃資料館

〒656-0475 兵庫県南あわじ市市三條880

■お問い合わせ先…南あわじ市淡路人形浄瑠璃資料館（担当：中西 英夫）

●〒656-0475 兵庫県南あわじ市市三條880 ●TEL.0799-43-5037 ●FAX.0799-43-5137

●URL:<http://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/soshiki/miharatoshokan/ningyo.html> ●E-mail:shiryokan@sansan-net.jp

■主催：南あわじ市淡路人形浄瑠璃資料館

市村六之丞座の人形・道具を保存展示

淡路人形浄瑠璃は、今から500年ほど昔、摂津西宮の傀儡師百太夫が三原郡三條村（現、南あわじ市市三條）に来て、人形操りを教えたのが始まりといわれ、その子の引田淡路掾は、元亀元年（1570）に、宮中で「式三番叟」を奉納して、従四位下という位を賜ったと伝えられています。

江戸時代になると上方から新しい浄瑠璃や技術をいち早く取り入れ、18世紀前半には、40以上の人形座が西日本を中心に全国各地を巡業しました。こうして浄瑠璃文化は全国に伝わり、四国・九州や中部地方、岩手県盛岡など、各地に淡路系人形芝居が根付きました。文楽の始祖、植村文楽軒も淡路出身でした。

淡路人形は、神事色を色濃く残しながら、早替わりなどケレン味に富んだ演出が特色で、大きい人形がダイナミックに動く時代物の演技が人気を集めました。中央では早くに廃絶した演目を長く伝承してきたことも特色です。

人々に親しまれた人形浄瑠璃も、昭和30年代

には急速に姿を消し、現在活動しているのは、吉田伝次郎座を引き継ぐ淡路人形座ただ一座になっています。

淡路人形発祥地にある淡路人形浄瑠璃資料館では、淡路座の名門、市村六之丞座の人形・道具一式を保存展示しています。

特別展示室では、人形浄瑠璃や淡路に関する企画展を行っています。



大展示室



大展示室



特別展示室「だんじりを彩る今昔」展（～5/31）

H11

兵庫県立淡路三原高等学校郷土部 創立60周年記念式典並びに記念公演

◎時期：平成24年6月下旬

◎場所：南あわじ市三原公民館
〒656-0006 兵庫県南あわじ市市円行寺345-1

■お問い合わせ先…兵庫県立淡路三原高等学校（担当：加藤 佳子）

●〒656-0006 兵庫県南あわじ市市円行寺345-1 ●TEL.0799-42-0048 ●FAX.0799-42-0313

●E-mail:awajimihara_hs@pref.hyogo.lg.jp

■主催：兵庫県立淡路三原高等学校

兵庫県立淡路三原高等学校郷土部 創立60周年記念式典並びに記念公演

兵庫県立淡路三原高等学校郷土部は、昭和27年に産声を上げました。当初は郷土研究や野外活動を目的として発足しましたが、当時の部員の間から、淡路人形の伝承に取り組みとういう声があがり、淡路人形芸術協会などから人形を借りて練習をはじめました。初舞台は昭和28年秋の文化祭、外題は、郷土部の船出にふさわしい、おめでたい「式三番叟」でした。その後、昭和35年頃から浄瑠璃も生徒が語るようになり、昭和61年からは三味線にも取り組み、現在では三業すべて生徒によって上演できるまでになりました。

半世紀あまりの郷土部の活動は、多岐にわたり、海外公演もハンガリー、カナダ、台湾、フランスと4回を数えます。全国高等学校総合文化祭への出演は12回。また、平成22年5月には、淡路島を訪れた皇太子殿下の御前で演技を披露す

る機会に恵まれました。郷土部の輝かしい活動はいずれも、永年にわたってご指導くださった歴代師匠や、淡路人形協会、淡路人形サポートクラブをはじめ、地域の方々のご支援の上に成り立っています。

現在、郷土部を巣立った卒業生は約500名。プロとして淡路人形座に入座した者や、アマチュア団体で活動を続けている者も数多く、次世代を担う淡路人形の後継者として、頼もしい存在となっています。

平成24年に創部60年を迎えるのを記念して、6月下旬に地元南あわじ市の三原公民館で創部60周年記念式典並びに記念公演を行います。まだまだ未熟な演技ではありますが、一杯演じますので、高校生たちの伝統芸能にける思いを感じ取っていただければ幸いです。



「増補大江山戻り橋の段」を演じる生徒



「増補大江山戻り橋の段」を演じる生徒

伝統芸能を中学クラブ活動で伝承

◎時期：通年

◎場所：兵庫県内外で実施

■お問い合わせ先…南あわじ市立南淡中学校 郷土芸能部 (担当：小坂 智美)

●〒656-0521 兵庫県南あわじ市潮美台3丁目1番地 ●TEL.0799-52-0111 ●FAX.0799-52-0930

●E-mail:nandan-jhs@minamiawaji.ed.jp

■主催：南あわじ市立南淡中学校 郷土芸能部

南淡中学校は兵庫県にある淡路島の一番南、四国の鳴門海峡に面した南あわじ市にあり、生徒数461名(平成23年度)で、島内2の規模である。郷土芸能部は開校と同時に開設。昭和58年創部。三業とも生徒。語りと三味線は、人間国宝鶴澤友路師匠に指導していただいている。

また、OBで淡路人形座の吉田史興さんに人形を、鶴澤友吉さんに三味線を指導していただいている。上演できる外題は「絵本太功記十段目」「壺坂靈験記」「日高川入相花王」「戎舞」の4つ。老人ホームや地域行事での公演を大切にしながら、県内外で、年間約30回の公演を行っている。

平成14年博報賞、文部科学大臣奨励賞、平成17年村尾育英会賞受賞。三重国民文化祭、岐阜国民文化祭、徳島国民文化祭、京都国民文化祭出演。

(主な県外公演)

平成14年より隔年で、東京での2時間単独公演(オリンピックセンター)24年度実施

平成20年 オーストラリア パース(南あわじ市コアラ親善大使として)

北海道、福井、京都、滋賀、大阪、徳島、香川、福岡 その他



日高川入相花王 渡し場の段



戎舞



絵本太功記十段目 尼崎の段



壺坂靈験記 壺坂寺の段

(写真出典:南あわじ市立南淡中学校郷土芸能部)

H13

市小学校 学習発表会

◎時期：11月下旬 土曜日

◎場所：南あわじ市立市小学校 体育館
〒656-0478 兵庫県南あわじ市市福永345-1

■お問い合わせ先…市小学校 郷土文化部（担当：濱田 晶子）

●〒656-0478 兵庫県南あわじ市市福永345-1 ●TEL.0799-42-0114 ●FAX.0799-42-5952

●URL:http://www.minamiawaji.ed.jp/ichi_es/ ●E-mail:ichi-es@minamiawaji.ed.jp

■主催：市小学校

めいぼくせんだいはぎごてんまさおかちゅうぎのだん

小学生が語る「伽羅先代萩御殿政岡忠義の段」

市小学校では昭和46年、淡路人形発祥の地の小学校として、郷土の伝統芸能の伝承を目的としたクラブ活動を開始しました。40年以上続く活動は、地域から子どもへ、そして親から子どもへと受け継がれています。子どもたちは「親がしていたから」「兄弟と同じところを語りたから」「カッコいいから」などという思いを抱いて入部しています。週に一度、竹本友喜美師匠の指導を受け、語りの練習をしています。先輩の姿を見て、後輩たちは語りのみならず、礼儀を学んでいます。

この郷土文化部の活動を、文化的な学校行事である学習発表会という場で披露し、伝統芸能の保存・継承をおこなっています。語りをする際の子どもたちの声の大きさ、堂々とした姿、まなざしには、淡路人形浄瑠璃を誇りに思うと同時に、それに憧れを抱く姿が感じられると思います。

ぜひ、ご覧下さい。



練習風景



発表会



発表会

子どもたちの人形浄瑠璃交流会

◎時期：平成24年7月26日（木）

◎場所：南淡子供人形浄瑠璃館

〒656-0516 兵庫県南あわじ市賀集福井392

■お問い合わせ先…福井子供会人形浄瑠璃部（担当：松崎 煌）

●〒656-0516 南あわじ市賀集福井32 ●TEL.0799-54-0206 ●FAX.0799-54-0206

■主催：福井子供会人形浄瑠璃部

人形浄瑠璃による子ども交流会

今年で6回目となる「子どもたちの人形浄瑠璃交流会」を7月26日（木）に南淡子供人形浄瑠璃館で開催します。

交流する団体は、山口県周南市の三丘（みつお）小学校5年生と私たち福井子供会人形浄瑠璃部で、三丘小学校は、江戸時代に周南市の安田地区で阿波の藍染商人が伝えたとされる「安田糸あやつり人形芝居」を受け継ぎ、福井子供会人形浄瑠璃部は、「淡路人形浄瑠璃」の継承を目指して昭和46年から活動しています。

演じる外題は、二つの団体とも同一の「傾城阿波鳴門 順礼歌の段」ですが、人形の大きさと操り方に違いがあり、「安田糸あやつり人形芝居」は30センチ前後の大きさの人形を1人が5本の糸で操り、「淡路人形浄瑠璃」は1メートル前後の人形を3人で操ります。

子どもたちの指導は、三丘小学校の場合は、安田糸あやつり保存会（三和会）が、福井子供会人形浄瑠璃部は、プロ集団の淡路人形座が担当してくれています。

当日は、それぞれの団体が今まで修得した技芸を披露します。そのあと、人形操り、三味線、語り（太夫）のパートに分かれ、それぞれの技芸について説明したり、質問したりしながら交流を深めます。

関西圏で生まれ育まれた「人形浄瑠璃」が、遠く山口県の地で長く伝承されてきた姿に接していただき、また、淡路島の小学生や中学生

が伝統文化に取り組む姿勢から感じていただけるものがあれば幸甚に存じますので、一般の方々におかれましては、ご多忙とは存じますが多数ご参加いただけますようお願い申し上げます。

当日は、地域の方々にも鑑賞していただく予定をしています。



福井子供会人形浄瑠璃部の発表。



三丘小学校の発表

（写真出典：福井子供会人形浄瑠璃部）

H15

文楽 in Hyogo

◎時期：平成24年11月27日(火)

◎場所：兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール
〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

■お問い合わせ先…兵庫県立芸術文化センター 事業部

●〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 ●TEL.0798-68-0223(代表) ●FAX.0798-68-0212

●E-mail: path@gcenter-hyogo.jp

■企画：河内 厚郎(兵庫県立芸術文化センター 特別参与) 製作：関西舞台芸術研究所 協力：関西舞台(株)

人形浄瑠璃の時代物の名作を上演

①文楽公演

人形浄瑠璃文楽座人形遣い吉田和生氏ほかによる『御所桜堀川夜討』『弁慶上使の段』の上演

②トークショー

旭堂南陵氏(講談師)、笠谷和比古氏(国際日本文化研究センター教授)によるトークショー

人形芝居の発祥の地とされる、西宮での人形浄瑠璃の公演は、意義あるものです。

源平時代の歴史がどんなふうに残り語り継がれるようになったかトークショーでひもといていきます。是非お楽しみください。



■兵庫県立芸術文化センター

兵庫県立芸術文化センターは、阪神・淡路大震災から10年の節目である2005年10月に文化復興のシンボルとしてオープンしました。各ホールでは、コンサート、オペラ、バレエ、演劇など芸術文化の新しい発信拠点として、様々な舞台芸術を展開していきます。



■阪急 中ホール

演劇を中心に、ミュージカルや古典芸能まで幅広く上演。オーケストラピットも備え、多種多様な舞台装置に柔軟に対応できるよう、組立床による舞台床システムを採用しています。客席空間は、舞台と客席の一体感に配慮し、2層バルコニー形式のどの席にお座りいただいても、演者の肉声に、その微妙なセリフ回しまでダイレクトに伝わるよう、適度な残響時間に設計しています。1階席の最後列から舞台までが約20mというコンパクトなつくりは観客にとっては観やすく、出演者にとっては演じやすい劇空間。客席内の壁面・天井も、観客と出演者が常に舞台上に集中できるように、落ち着いた色調に着色した杉材で統一されており、まさに理想的な舞台鑑賞空間となっています。

(写真出典：兵庫県立芸術文化センター)

乙田浄瑠璃・芝居資料

●時期：平成24年4月1日(日)～(未公開)

●場所：萩の台文化財保存館

〒630-0224 奈良県生駒市萩の台1071(石福寺境内)

■お問い合わせ先…萩の台文化財保存会(担当：森田)

●〒630-0224 生駒市萩の台965 ●TEL.0743-77-8493(要予約)

■主催：生駒市教育委員会

乙田浄瑠璃・芝居資料

本資料は、乙田村(現在生駒市萩の台)で江戸時代末期から昭和にかけておこなわれた民俗芸能資料で、その用途から浄瑠璃語り資料135点浄瑠璃本(100点)、浄瑠璃覚、小道具(11点)、歌舞伎(かぶき)芝居資料27点、人形芝居資料28点(人形12点)、共栄演劇倶楽部資料24点に分類できます。

乙田の芸能は、幕末に豪農で酒造商を営んでいた松川伊作が、当時愛好されていた浄瑠璃を村内に広めたのが始まりとされ、上方歌舞伎の影響を受けて浄瑠璃語りから歌舞伎芝居へと変化し、明治中頃には村芝居の演劇集団「松栄連中(まつえれんじゅう)又は松栄座」を成立させ、人形浄瑠璃も加えて、乙田村内のみならず奈良県北部を中心に昭和29年(1954)の最終公演まで続けられました。現在では、浄瑠璃などの上演技術は伝承されておらず、資料は未公開としています。

平成19年3月30日奈良県指定文化財に指定されました。(なお、平成26年以降生駒市郷土資料館の開館に伴い、当資料館での一部公開を予定しています。)



明智光秀



見台



明智十次郎



初花

(写真出典：生駒市教育委員会)

W1

春の本堂無料公開・特別展示 「道成寺物の世界 人形浄瑠璃」

●時期：平成25年3月20日（水・祝）～4月8日（月）10:00～15:00

●場所：道成寺本堂（重要文化財）

〒649-1331 和歌山県日高郡日高川町鐘巻1738

■お問い合わせ先…道成寺（担当：朝倉 実宏、小野 俊成）

●〒649-1331 和歌山県日高郡日高川町鐘巻1738 ●TEL.0738-22-0543 ●FAX.0738-23-3806

●URL: <http://dojoji.com> ●E-mail: info@dojoji.com

■主催：宗教法人 道成寺

共同する団体名：未定（おいでよ!日高実行委員会に打診中）／未定（日高川町観光協会に打診中）／未定（御坊市観光協会に打診中）

道成寺の伝説は、安珍（あんちん）と清姫（きよひめ）の物語として知られ、人形浄瑠璃をはじめ、能、歌舞伎、日本舞踊などの題材となりました。それらの作品群は「道成寺物」（どうじょうじもの）と呼ばれ、記録に残る作品数は150以上、日本各地で演じられる道成寺物は毎年100公演を超えます。

人形浄瑠璃における道成寺物は、『日高川入相花王』（ひだかがわいりあいざくら）がよく知られていますが、その他にも『恋女房染手綱』（こいによぼうそめわけたづな）や『道成寺現在蛇鱗』（どうじょうじげんざいうろこ）があります。

また、日本各地の人形芝居や祭礼にも道成寺物があり、八王子車人形（東京都）、知立まつり山車文楽（愛知県）をはじめ、関西でも能勢人形浄瑠璃、淡路人形浄瑠璃などが知られています。

道成寺物は今では古典の範囲を超え、現代の芸術作品にも取り入れられ、毎年のように新作が

発表されています。人形アニメーション映画の世界でも、川本喜八郎監督『道成寺』が国際的に高い評価を受けました。

道成寺では、能、歌舞伎、日本舞踊など、毎年テーマを変えながら「道成寺物の世界」という展示を続けています。

平成25年春、満開の桜の下、1300年を超える古刹の風情とともに、人形浄瑠璃にちなむ道成寺物の世界をお楽しみ下さい。



日本画 日高川幻想 宮前直樹



日本画 日高川入相花王 長谷川豊国
国立文楽劇場奉納



二曲一雙屏風 操人形二人道成寺
作者不明 江戸時代

（写真出典：道成寺蔵）

F1

第15回たちまち近松まつり

◎時期：平成24年10月14日(日)

◎場所：立待公民館

〒916-0005 福井県鯖江市杉本町702-2

■お問い合わせ先…立待公民館(担当：吉本)

●〒916-0005 福井県鯖江市杉本町702-2 ●TEL.0778-51-3376 ●FAX.0778-51-8416

●URL:<http://www.city.sabae.fukui.jp> ●E-mail:SC-CC-Tachimachi@city.sabae.fukui.jp

■主催：たちまち近松まつり実行委員会

共同する団体名：立待地区区長会／近松の里づくり事業推進会議／鯖江市教育委員会

鯖江人形浄瑠璃「近松座」『傾城恋飛脚』初上演

世界に誇る文豪・近松門左衛門が少年時代を過ごしたまち福井県鯖江市では、文楽を通して新しい文化を創造するため平成17年に設立された鯖江人形浄瑠璃「近松座」が、文楽出前公演やデモンストレーション、体験教室を実施して「近松のまちさばえ」を情報発信していますが、より効果的な情報発信のため、平成23年度において、近松の代表作『冥途の飛脚』の改作版『傾城恋飛脚』の習得に向けて、NPO法人「文楽座」の桐竹紋寿氏より人形の指導を受けました。近松が住んでいた立待地区では、毎年、近松に特化したイベント「たちまち近松まつり」を開催していますが、第15回目の記念の開催となる今年の「たちまち近松まつり」で、『傾城恋飛脚』を初上演します。立待地区では、5カ年をかけて近松ゆかりの史跡等を整備しており、また、昨年からは、ゆかりの地12箇所をまわるスタンプラリー

ー「近松の里たちまちパワースポットめぐり」を開始しました。来年は、近松生誕360年を記念して、「さばえ近松文学賞」も募集する予定です。全国から、整備された「近松の里」や「たちまち近松まつり」においていただき、また、「さばえ近松文学賞」にもたくさんの応募をお願いいたします。



文楽体験教室
(写真出典：近松の里づくり事業推進会議)



たちまち近松まつり
(写真出典：たちまち近松まつり実行委員会)



子ども文楽交流
(写真出典：鯖江市教育委員会文化課)

M1

平成24年安乗神社秋季例大祭奉納 安乗人形芝居

◎時期：平成24年9月15日、16日

◎場所：安乗人形芝居舞台（安乗神社境内）

〒517-0507 三重県志摩市阿児町安乗842番地

■お問い合わせ先…安乗人形芝居保存会

●〒517-0507 三重県志摩市阿児町安乗 ●TEL.0599-47-3178

■主催：安乗人形芝居保存会 共同する団体名：安乗中学校

平成24年安乗神社秋季例大祭奉納 安乗人形芝居

安乗の人形芝居は、八幡宮（現安乗神社）の秋季祭礼行事として、約400年の歴史を持つ。

毎年旧暦の8月15日に奉納され、娯楽の少ない漁村民の生活に溶け込み受け継がれてきたが、大正末期から昭和初期にかけて、農漁村の不況のため一時中断となる。

昭和25年に村民の強い願望であった人形芝居の復興が有志により実現し、その後、人形芝居保存会が結成され現在に至る。昭和27年3月13日に三重県無形文化財に指定され、昭和55

年1月28日には国の重要無形民俗文化財にも指定された。

保存会は後継者の育成のため、地元の小中学生や有志の方達の指導に努めており、この伝統文化の保存・継承に力を注いでいる。

一年を通して様々なイベントにも参加し、「安乗人形芝居」の普及のため、積極的に活動している。現在は、毎年9月15日・16日に、安乗神社境内の舞台において上演している。



「絵本太功記」

(写真出典：泊 正徳)



安乗中学生による「鎌倉三代記」

(写真出典：泊 正徳)



「傾城阿波の鳴門」

(写真出典：泊 正徳)



「艶容女舞衣」

(写真出典：志摩市役所)

円通寺人形芝居

◎時期：随時開催

◎場所：鳥取市円通寺人形芝居伝承館

〒680-0144 鳥取県鳥取市円通寺851番地

■お問い合わせ先…円通寺人形芝居保存会（担当：会長／西村）（要予約）

●〒680-1144 鳥取県鳥取市円通寺903番地 ●TEL.0857-53-0713

■主催：円通寺人形芝居保存会

ふるさとの伝統芸能「円通寺人形芝居」

円通寺人形芝居は、旧鳥取市の南端に位置する円通寺地区に約400年前より継承されている「円通寺節」に合わせて舞わせる素朴な人形芝居で、県の無形民俗文化財に指定されている伝統芸能です。

この円通寺人形芝居は、明治年間まで一人遣いで演じられたと考えられ、また、伝承演目の中に祝福の門付芸としても演じられた「大黒舞」の演目を含むなど人形芝居の古様な姿を示し、また、江戸時代にこの地方で流行した歌謡に合わせて人形を操るなどの特色を示しています。

現在、この人形芝居に伝わる「頭【かしら】」には一人遣いをうかがわせるものがあり、かつてこの地方で行われた門付芸の人形芝居（一人遣いと考えられる）は、「三吉デコ」と総称されていましたが、今日でも三人遣いながら「三吉デコ」と呼ばれる演目を伝えており、この演

目は古様な一人遣いとの関連を示すと考えられます。

また、「大黒舞」の演目は、正月や婚礼、新築祝い、大漁祝いなどの際に、それぞれの場所に出向き、御祝儀として行われたものと伝え、いわゆる祝福の門付芸の流れを汲んでいます。この人形芝居の「地【じ】」（伴奏）に使われる歌謡は、「クドキ節」、「ガンリキ節」、「ネンリキ節」、「心中節」、「円通寺節」など様々な呼ばれています。一説に、江戸時代に鳥取城を山城から平城にする際の労働で歌われ始めたともいわれ、盆踊り唄などのいわゆる「クドキ」の曲調で、伴奏楽器が三味線のほか、太鼓や胡弓を使うなどの特色があります。

このように、円通寺人形芝居は、日本の人形芝居の歴史的な変遷や人形浄瑠璃を知るうえで重要なものとされています。



三吉デコ



大黒舞



平井権八



人形勢ぞろい

（写真出典：鳥取市教育委員会）

T1

阿波十郎兵衛屋敷(阿波人形浄瑠璃の上演・資料展示)

◎時期：通年(休館日：12月31日～1月3日)

◎場所：徳島県立 阿波十郎兵衛屋敷

〒771-0114 徳島県徳島市川内町宮島本浦184

■お問い合わせ先…徳島県立 阿波十郎兵衛屋敷(担当：事業課 中)

●〒771-0114 徳島県徳島市川内町宮島本浦184 ●TEL.088-665-2202 ●FAX.088-665-3683

●URL:<http://joruri.info/jurobe/> ●E-mail:awajurobeyashiki@m.f.pikara.ne.jp

■主催：(財)徳島県文化振興財団 協力：(公財)阿波人形浄瑠璃振興会

阿波人形浄瑠璃の上演(毎日2回)

国の重要無形民俗文化財「阿波人形浄瑠璃」を毎日2回(11:00、14:00)上演中。徳島藩のお家騒動を描いた「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」にて母と娘の情愛をたっぷりとお楽しみください。

展示室においては、阿波人形浄瑠璃で使われる木偶人形や衣装などを展示し、阿波の特色をご覧ください。

施設内にある母屋では、木偶の写真展示等も行っており、昔ながらの練塀に囲まれた純日本式庭園では黒松と自然石が巧みに配置されており、ゆったりとした時間を味わえます。

また、3月の弥生公演、6月の水無月公演、お盆期間の1日3公演など特別公演も見応えがります。

●開館時間

9:30～17:00(ただし、7～8月は18:00)

●休館日

12月31日～1月3日

●入場料

一般400円(320円) 高/大学生300円(240円)

小/中学生200円(160円)

()内は20人以上の団体料金



風情あふれる入り口



阿波人形浄瑠璃の特色たっぷりの展示室



11:00、14:00の定期公演



鶴亀の庭と母屋

農村舞台連携事業（PR事業）

◎時期：通年

◎場所：下記参照

■お問い合わせ先…(財)徳島県文化振興財団 国民文化祭担当チーム（担当：久米）

●〒770-0835 徳島市藍場町2-14 ●TEL.088-602-0133 ●FAX.088-602-0134

●URL:<http://www.kyoubun.or.jp/> ●E-mail:kume@kyoubun.or.jp

■主催：下記参照

人形芝居用の農村舞台数「日本一」

徳島県内の神社の境内には、人形芝居用の農村舞台が、全国で最も多く残っており、いかに人形浄瑠璃が盛んであったかを物語っています。農山漁村の村人たちは自分たちで農村舞台を建て、人形座をつくり春秋の祭りに自ら演じて楽しみました。その後、時代の変遷により公演を行う舞台も減少しました。しかし、地域住民や人形浄瑠璃関係団体、行政が連携し再生に取り組むことにより、長年使用されていなかった農村舞台が復活し、毎年定期公演を行える舞台も出てきました。

情緒あふれる農村舞台にてゆったりとした時間をお楽しみください。そこでしか味わえない魅力を感じていただくことで、気持ちが癒やされることでしょう。



山腹にある法市農村舞台



小野さくら野舞台（視力クラリの様子）

【平成24年度の開催情報】

- ①10月7日（日）今山農村舞台公演
勝浦郡勝浦町沼江字山路 今宮神社境内
（問合せ：勝浦町教育委員会 0885-42-2515）
- ②10月14日（日）法市農村舞台公演
三好郡東みよし町東山字法市 舟渡神社
（問合せ：東みよし町教育委員会 0883-79-3217）
- ③10月14日（日）犬飼農村舞台公演
徳島市八多町八尾 五王神社境内
（問合せ：舞台保存会会長 088-645-0735）
- ④10月14日（日）小野さくら野舞台公演
名西郡神山町神領小野 天王神社境内
（問合せ：神山町教育委員会 088-676-1522）
- ⑤10月21日（日）鎌瀬農村舞台公演
那賀郡那賀町横石字大板 山神社境内
（問合せ：相生森林美術館 0884-62-1117）
- ⑥11月3日（土・祝日）犬飼農村舞台公演
徳島市八多町八尾 五王神社境内
（問合せ：徳島市教育委員会 088-621-5419）



自然あふれる谷間の舞台も！

（写真出典：(財)徳島県文化振興財団）

T3

阿波人形浄瑠璃公演

◎時期：平成24年10月14日(日)、11月3日(土・祝)

◎場所：国指定有形民俗文化財 犬飼の舞台
〒771-4266 徳島市八多町八屋63-7(五王神社境内)

■お問い合わせ先…犬飼農村舞台保存会(担当：芝原 孝昌)

●〒771-4266 徳島市八多町友広148 ●TEL.088-645-0735 ●FAX.088-645-0735

●E-mail:takaakishibahara@yahoo.co.jp

■主催：犬飼農村舞台保存会 共同する団体名：徳島市教育委員会／阿波人形浄瑠璃勝浦座／友和嘉会(太夫座)

阿波人形浄瑠璃公演

明治時代より受け継がれてきた五王神社境内にある犬飼の舞台では、秋祭の呼び物として阿波人形浄瑠璃や村芝居が上演されてきました。一時中断するも、地元有志により昭和48年犬飼農村舞台保存会を結成し、伝統文化である阿波人形浄瑠璃の公演や当舞台の特色である132枚の襖絵を操作し42景を上演する襖からくり(段返し千畳敷)を伝承しています。

犬飼農村舞台保存会は平成10年に徳島市指定無形民俗文化財犬飼農村舞台の襖からくりの保持団体に指定されており、徳島県の伝統文化である阿波人形浄瑠璃を保存継承するために、定期公演を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

第27回国民文化祭とくしま2012 阿波人形浄瑠璃公演

開催日	出演者
平成24年 10月14日(日) 11時開演	勝浦座による阿波人形浄瑠璃公演ならびに犬飼農村舞台保存会による襖からくり公演 後継者育成をテーマに徳島県立城北高等学校校民芸部も参加、上演予定

阿波人形浄瑠璃公演

開催日	出演者
平成24年 11月3日 (土・祝) 11時開演	勝浦座による阿波人形浄瑠璃公演ならびに犬飼農村舞台保存会による襖からくり公演



平成23年11月3日公演写真
(写真出典：犬飼農村舞台保存会 芝原)

阿波木偶資料館リニューアルオープン

◎時期：平成24年9月～

◎場所：あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)5F 阿波木偶資料館
〒770-0835 徳島県徳島市藍場町2丁目14番地

■お問い合わせ先…財団法人 徳島県文化振興財団 (担当：中川)

●〒770-0835 徳島県徳島市藍場町2丁目14番地 ●TEL.088-622-8121 ●FAX.088-622-8123

●URL:<http://www.kyoubun.or.jp> ●E-mail:jigyo@kyoubun.or.jp

■主催：財団法人 徳島県文化振興財団

阿波木偶資料館リニューアルオープン

阿波人形浄瑠璃は約400年の歴史を持っておりませんが、それと同様に阿波の人形師も古い歴史を持っております。享保年間(1716～36)に活躍した馬之瀬駒蔵(うまのせこまぞう)が阿波人形師の祖とされ、以後多くの名工が徳島の地から輩出されております。中でも、初代天狗久(てんぐひさ)、人形忠(にんぎょうちゅう)が有名です。

当財団は、この駒蔵を祖とする阿波の人形師達の貴重な木偶カシラ(人形の頭の部分)を165点、人形の衣装等の関係資料を約400点所蔵しており、阿波木偶資料館にてこれらの資料を常時展示していますが、平成24年度に徳島県で2度目の国民文化祭が開催されるにあたり、

それにあわせて展示替えを行い新たな形で資料を展示します。当資料館でしか見られない貴重な木偶カシラ等の展示はもちろんのこと、阿波人形浄瑠璃自体にも興味を持っていただけるような魅力ある展示となってリニューアルオープンする予定です。



初代天狗久作「絵本太功記 初菊」



馬之瀬駒蔵作「義経千本桜 権太」



人形忠作「絵本太功記 武智光秀」

(写真出典:財団法人 徳島県文化振興財団所蔵)

T5

第67回夏期阿波人形浄瑠璃大会

◎時期：平成24年7月21日(土)～22日(日)午前10時～午後4時

◎場所：あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

〒770-0835 徳島市藍場町2-14

■お問い合わせ先…公益財団法人 阿波人形浄瑠璃振興会(担当：井上 邦仁)

●〒770-8031 徳島市大谷町九日田7番地1 ●TEL.088-669-1752 ●FAX.088-669-1752

■主催：公益財団法人 阿波人形浄瑠璃振興会

第67回夏期阿波人形浄瑠璃大会

阿波人形浄瑠璃振興会は昭和22年に徳島の誇る伝統芸能である阿波人形浄瑠璃を復興し後世に伝えようと太夫を中心に発足しました。

この夏期大会はその中心的なイベントであり、当初は県内太夫の語りに淡路島からプロの人形座という形態で徳島市内の会場で公演がありました。現在は、県内の太夫の語りはそのままに、人形は県内人形座という形態に変わっています。ちなみに現在の振興会加入の県内太夫部屋は5団体、人形座は14団体、人形を制作する人形師6人、太夫個人会員3人の約300人です。

この夏期大会の上演演目は、古典から新作まで幅広い演目で、古典としては「傾城阿波の鳴門順礼歌の段」、「壺坂観音霊験記 沢市内から山

の段」、「恋女房染分手綱 重の井子別れの段」「絵本太功記 尼が崎の段」等、新作としては「越前母恋情話」等を予定しています。

ぜひ多くの皆様が会場に足をお運びくださいますようお願いいたします。



ゆづせいかい よりいざ
「太夫・三味線は友成会、人形は寄井座」



あひいざ
「絵本太功記 尼が崎の段を演じる寄井座」

T6

分野別フェスティバル 阿波人形浄瑠璃まつり

◎時期：平成24年11月17日(土)～18日(日) 午前10時～午後5時

◎場所：徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

〒771-0114 徳島市川内町宮島本浦184

■お問い合わせ先…公益財団法人 阿波人形浄瑠璃振興会（担当：井上 邦仁）

●〒770-8031 徳島市大谷町九日田7番地1 ●TEL.088-669-1752 ●FAX.088-669-1752

■主催：公益財団法人 阿波人形浄瑠璃振興会

分野別フェスティバル 阿波人形浄瑠璃まつり

平成19年に徳島県で開催された国民文化祭の成果を継続して実施されている分野別フェスティバルの阿波人形浄瑠璃分野のイベントです。

毎年趣向を凝らして、平成20年には阿波に伝承される「阿波の手」と称する徳島独特の人形操りを主体に、21年は世界に発信する民俗芸能として、22年には徳島に伝わる「えびす舞」と「三番叟」を中心に、23年は後継者育成を中心に小・中学生、高校生・大学生を中心にした催し物を開催してまいりました。

今年は会場となる阿波十郎兵衛屋敷を中心に地域の祭りとして阿波人形浄瑠璃をご覧いただくと思っています。町内会による出店や模擬店を依頼し、秋祭りのような雰囲気の人形浄瑠璃を楽しんでいただこうと思っておりますので、ぜひ多くの皆様が会場に足をお運びくださいますようお願いいたします。



しほたんばそう おのいぞ
式三番叟を演じる寄井座

(写真出典：公益財団法人 阿波人形浄瑠璃振興会)

T7

一人遣い伝統人形大芝居partⅢ

◎時期：平成24年10月13日(土)

◎場所：ふれあい健康館(徳島市生涯福祉センター)

〒770-8053 徳島県徳島市沖浜東2丁目16番地

■お問い合わせ先…特定非営利活動法人 阿波の門付け芸保存会(担当：中内 正子)

●779-3112 徳島県徳島市国府町芝原字神楽免158 ●TEL.088-642-0749 ●FAX.088-642-1768

●URL:http://www1.kbctv.ne.jp/~ebisu/ ●E-mail:ebisu@ma.kbctv.ne.jp

■主催：特定非営利活動法人 阿波の門付け芸保存会

共同する団体名：一人遣い伝統人形大芝居実行委員会/阿波木偶箱廻しを復活する会/芝原生活文化研究所

一人遣い伝統人形大芝居partⅢ

日本が誇る、一人遣い伝統人形芝居の世界を堪能して頂きます。今回は、第三回目の開催で、八王子車人形五代目家元西川古柳氏と西畑人形座三代目朝日若輝一座の他、北原人形芝居の一人遣いを再現した古門氏を迎えての公演となります。徳島ならではの阿波木偶箱廻しは、祝福芸「三番叟まわし」や見ごたえある箱廻し外題を用意してお迎えます。

「一人遣い伝統人形大芝居」は、大都市では普段見る事が出来ない伝統人形芝居を紹介しています。舞台を通して、地方の豊かな無形文化遺産を楽しんでいただけます。

小さな会場ならではの臨場感を活かして、静と動が織りなす感動の世界を企画しています。

◎入場料:大人……………3,000円
高校生以下……………1,500円

◎昼・夜二回公演/各200席限定
(チケット販売7月初旬より)

◎お問い合わせ・お申込み:実行委員会
tel:088-642-0749 fax:088-642-1768
(担当：中内・南)



西畑人形座三代目朝日若輝一座「西畑人形芝居」



北原人形芝居(一人遣い)

八王子車人形西川古柳座
「スパニッシュダンス」

阿波木偶箱まわしを復活する会「箱廻し」

(写真出典:阿波木偶箱まわしを復活する会)

今山農村舞台秋公演

◎時期：平成24年10月7日(日)

◎場所：勝浦町今山農村舞台

〒771-4301 徳島県勝浦郡勝浦町大字沼江字山路191番地

■お問い合わせ先…勝浦町教育委員会／勝浦座（担当：正瑞 美佳子）

●〒771-4395 徳島県勝浦郡勝浦町大字久国字久保田2番地1 ●TEL.0855-42-2515 ●FAX.0855-42-4900

●URL:<http://www.town.katsuura.lg.jp> ●E-mail:kyouiku@town.katsuura.lg.jp

■主催：今山農村舞台保存会／勝浦町教育委員会

共同する団体名：勝浦座／徳島県立小松島西高等学校勝浦校民芸部（旧勝浦高校民芸部）／こども阿波人形芝居教室

今山農村舞台秋公演

今山農村舞台保存会は、人形浄瑠璃の普及と今山農村舞台の保存及び継承を目的に、古い伝統を守りつつ、新しい演目などの公演を行っている、今山地区在住者を中心とした伝統文化保存に熱意ある者が組織する団体です。

今山農村舞台の特徴である、平舞台から船底舞台へと転換する転換機構を備えている仮設

船底舞台形式を利用し、人形浄瑠璃の他、影絵や人形劇などの公演を取り入れています。

大人から子どもまでが集まり、様々な芸能に触れ合い、昔ながらの風情を楽しんでいただけます。

ぜひ、ご来場ください。

お待ちしております。



こども阿波人形芝居教室



勝浦座



人形劇



外国の方との交流

T9

人形浄瑠璃街道-日本の基層に息づく感性

◎時期：平成24年3月10日発行

■お問い合わせ先…特定非営利活動法人 阿波農村舞台の会（担当者：佐藤 憲治）

●770-8063 徳島市南二軒屋町2-3-3 ●TEL.088-654-0359 ●FAX.088-623-7425

●URL:<http://www.nousonbutai.com> ●E-mail:info@nousonbutai.com

■主催：特定非営利活動法人 阿波農村舞台の会

冊子「人形浄瑠璃街道-日本の基層に息づく感性」の発行

日本の各地には、三人遣いの人形浄瑠璃だけでなく、えびすかきや箱廻し、車人形、糸操り、指人形や差し人形など、さまざまなスタイルの人形芝居が今日まで伝えられています。

そこには私たち日本人が共通して持っている感性、先人たちが人形に託してきた思いが脈々と流れています。その流れを少し汲み取ってみることで、この文化がいかにも私たちの体の隅々にまで染み込んでいるかを垣間見ることができます。

徳島県内の神社の境内には、人形芝居用の農村舞台が100棟も残されており、その数は全国一。春秋の祭りには県内各地で五穀豊穡や家内安全を願って、人形浄瑠璃が奉納されています。山桜の花びらが降り注ぐ中、あるいは美しい新緑を背景に、秋にはさわやかに張りつめた空気とともに楽しむ人形浄瑠璃は格別です。正月には、2つの木箱に人形を入れ、天秤棒で担いで門付けを行う箱廻し芸人が1年の福を届けます。お彼岸には農業の神に三番叟を奉納し、漁村では大漁祈願に、えびす舞が行われるなど、今も生活の中に人形文化が息づいているのが徳島です。

全国各地で人形芝居に携わる人たちとともに、この芸能を盛りたてていきたいとの思いから、この冊子を作成いたしました。どうかご一読くださり、ご意見等をいただければ幸いです。



寿二人三番叟（阿波人形浄瑠璃研究会青年座）



拝宮農村舞台（徳島県那賀町）での公演

（写真出典：特定非営利活動団体 阿波農村舞台の会）

T10

阿波人形芝居フェスティバル in 勝浦

◎時期：平成24年9月22日(土)

◎場所：勝浦町農村環境改善センター

〒771-4307 徳島県勝浦郡勝浦町大字三溪字古川3番地2

■お問い合わせ先…勝浦町教育委員会／勝浦座（担当：正瑞 美佳子）

●〒771-4395 徳島県勝浦郡勝浦町大字久国字久保田2番地1 ●TEL.0885-42-2515 ●FAX.0885-42-4900

●URL:<http://www.town.katsuura.lg.jp> ●E-mail:kyouiku@town.katsuura.lg.jp

■主催：勝浦町教育委員会／勝浦座

共同する団体名：徳島県立小松島西高等学校勝浦校民芸部（旧勝浦高校民芸部）／こども阿波人形芝居教室

阿波人形芝居フェスティバル in かつうら

「勝浦座」は、(公財)阿波人形浄瑠璃振興会に所属し、年間行事をこなす一方、県内外での公演や海外からも招待されるなど活動を続けており、昭和49年には勝浦町指定の無形文化財となっています。

小松島西高校勝浦校民芸部(旧勝浦高校民芸部)は、伝統芸能の継承、情操教育を目的に昭和38年に創設され、勝浦座の指導を受けています。人形技術の習得が難しく、人形や道具類も手に入りにくい人形浄瑠璃を高校の部活動として取り組んでいます。

また、「こども阿波人形芝居教室」は、徳島が誇る伝統芸能「阿波人形浄瑠璃」の保存、発展を図り後継者の育成を目的に実施し、勝浦町内の小中学生を対象に夏休み等を利用し、勝浦座の座員による指導を受け練習に励んでいます。

勝浦座が中心となり、様々な年代へ「人形浄瑠璃」が継承され、この発表の場の一つが『阿波人形芝居フェスティバル』です。

公演前には、人形の構造や遣い方、動かし方の説明、希望者には人形を持っていただける、ふれあい体験コーナーも行います。

ぜひ、ご来場ください。



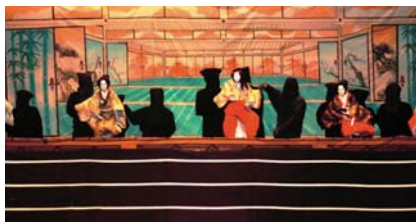
ふれあい体験コーナー



小松島西高校勝浦校民芸部(旧勝浦高校民芸部)



こども阿波人形芝居教室



勝浦座

T11

第25回 阿波勝浦ビッグひな祭り

◎時期：平成25年2月下旬～3月下旬
【人形浄瑠璃公演開催時期】平成25年3月上旬

◎場所：勝浦町人形文化交流館
〒771-4303 徳島県勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ浦35番地1

■お問い合わせ先…ビッグひな祭り実行委員会／NPO法人 阿波勝浦井戸端塾（担当：稲井稔 ビッグひな祭り実行委員会）
●〒771-4303 徳島県勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ浦35番地1 ●TEL.0885-42-4334
●URL:<http://bighinamaturi.jp/>

■お問い合わせ先…勝浦町産業交流課
●〒771-4395 徳島県勝浦郡勝浦町大字久国字久保田3番地 ●TEL.0885-42-1505 ●FAX.0885-42-3028
●URL:<http://www.town.katsuura.lg.jp> ●E-mail:sangyo@town.katsuura.lg.jp

■主催：ビッグひな祭り実行委員会／NPO法人 阿波勝浦井戸端塾 共同する団体名：勝浦座

第25回 阿波勝浦ビッグひな祭り

阿波勝浦ビッグひな祭りは、町おこしと人形文化の保存伝承のため、毎年開催しており、今年度で25回目の開催となります。

家庭で飾られなくなった雛人形を全国から集めて供養するとともに、約3万体の雛人形を絢爛豪華に展示、また中央にそびえ立つひな段『大ピラミット』は高さ8mにも達し、その姿は圧巻です。また、道沿いにはひな段から飛びだしたおひな様たちが、商店街や民家の軒先に並んだ“おひな街道”、農村体験型宿泊施設の『ふれあいの里さかもと』では、旧坂本小学校体育館を利用した“おひなさまの奥座敷”がごございます。

開催期間中は、様々なイベントが行われますがその一つとして、勝浦座の人形浄瑠璃公演が行われ、更にビッグひな祭りを盛り上げてくれます。

本家、勝浦座の人形浄瑠璃とひな人形のコラボを鑑賞しに、ぜひ、ご来場ください。



ひな人形「大ピラミット」



勝浦座

(写真出典:ビッグひな祭り実行委員会)

T12

勝浦高校民芸部50周年記念大会

◎時期：平成24年8月26日(日) 13時から17時

◎場所：勝浦町農村環境改善センター
〒771-4307 徳島県勝浦郡勝浦町大字三溪字古川3番地2

■お問い合わせ先…勝浦高校民芸部50周年記念大会実行委員会（担当：松下 義和）

●〒771-4307 徳島県勝浦郡勝浦町大字三溪字栗城23番地1 ●TEL.0885-42-4174 ●FAX.0885-42-4174

●E-mail:y-matsushita@quollia.ne.jp

■主催：勝浦高校民芸部50周年記念大会実行委員会

共同する団体名：徳島県立小松島西高等学校勝浦校民芸部

勝浦高校民芸部50周年記念大会

徳島県には阿波人形浄瑠璃という民俗芸能があり、その伝統を受け継ぐため徳島県立勝浦高等学校（平成24年4月から小松島西高等学校勝浦校に改称）に民芸部が設置されたのは昭和37年で、平成24年に50年の節目を迎えること



H23阿波人形芝居フェスティバルにて

になります。その記念すべき年に記念式典と民芸部の卒業生と現役の高校生による人形浄瑠璃の発表会を開催し、町内外の方に阿波人形浄瑠璃をご覧いただきたいと計画いたしました。

民芸部卒業生はこの50年間で200人余りとなり、大阪の文楽技芸員になった者や地元勝浦町に江戸時代から続く阿波人形浄瑠璃の人形座「勝浦座」に入って伝統を守る者もいます。

当日上演する演目は、民芸部がその勝浦座から指導を受けた「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」、「壺坂観音靈験記 沢市内から山の段」、「一の谷嫩軍記 熊谷陣屋の段」を予定しています。

ぜひ多くの皆様が会場に足をお運びくださいますようお願いいたします。



H23阿波人形芝居フェスティバルにて

T13

人形浄瑠璃、復活、普及、推進月間

◎時期：平成24年4月1日(日)～平成25年3月31日(日) (通年)

◎場所：阿波木偶人形会館

〒771-0114 徳島市川内町宮島本浦226-1

■お問い合わせ先…阿波木偶人形会館 (担当：多田 健二)

●〒771-0114 徳島市川内町宮島本浦226-1 ●TEL.088-665-5600 ●FAX.088-665-2972

●URL:<http://www3.tcn.ne.jp/~awadekoningyok/> ●E-mail:komomo2@ma.pikara.ne.jp

■主催：阿波木偶人形会館

浄瑠璃人形の常設展示館です。人形制作過程、カラクリの仕掛けなどの詳しい説明、浄瑠璃人形の世界をわかりやすく紹介しています。

木偶人形に触れるコーナーや、人形芝居のテレビ(ビデオ)放映もあり、その外、修理、修復、販売など。



木偶人形制作



お染(娘)



たてふだ



阿波木偶人形会館内で人形制作過程などの説明をしているところです。



人形会館

(写真出典：阿波木偶人形会館)